

文化
B.11.10
課業務部

臨時對支防疫事業部
臨時對支防疫第一六八號
昭和十三年十二月九日

臨時對支防疫事業部

代表者 宮川 米

外務省文化事業部長
蜂谷輝雄 殿

第二課長 伊藤

伊藤

中支防疫部報告書轉送ノ件

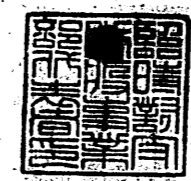
今般中支防疫部ヨリ左記ノ通報付テリタルニ付右各一部提出ス

左記

一、中支防疫部上海支那防疫業務月報 第四號

一、南京支那第五回業務報告

一、無錫ニ於ケル移動防疫並ニ餘慶ニ關スル報告



昭和十三年十月十日 接受

13.12.13
添

同仁會

文化
B.11.4
課業務部

機密第五二九號

昭和十三年十月二十六日

在南京

總領事代理 内田 藤 雄



別紙添附

第二課長

馬

外務大臣 公爵 近衛 文麿 殿

13.12.16
添

中支防疫本部南京支那業務報告送付ノ件

中支防疫本部南京支那支部提出ニ係ル第四回業務報告一部御參考迄別添
送付ス御査閱相成度
本信寫送付先 上海

要再回

在南京日本總領事館

H-0255

秘

昭和十三年九月三十日

第四回業務報告

軍特務部南京防疫部

中支防疫本部

南京支部

九月南京支部業務月報

一 予防接種

前月ニ引續キ大要左記ノリヲ予防接種ヲ實施セ

左記

第一表	九月中予防接種数					計
区	第一区	第二区	第三区	第四区	第五区	
1	1,251	1,700	221	269	-	3,941
2	1,088	1,793	474	200	=	3,555
3	1,202	1,354	537	202	351	3,646
4	-	-	-	-	-	-
5	1,346	1,885	676	254	635	4,796
6	1,681	1,593	559	224	=	4,057
7	1,583	2,267	603	179	=	4,632
8	2,238	2,073	538	219	=	5,068
9	625	1,219	353	132	=	2,329

10	1,517	2,481	513	137	-	4,648
11	-	-	-	-	-	-
12	1,465	2,077	668	263	-	4,473
13	1,165	1,707	554	201	-	3,627
14	656	878	655	347	=	2,536
15	1,170	2,343	687	433	=	4,623
16	1,165	2,106	628	521	-	4,420
20	735	2,108	691	415	-	3,949
21	577	299	526	355	-	2,257
22	1,033	1,092	788	455	644	4,012
23	926	746	837	364	-	2,873
24	836	533	783	354	-	2,506
28	876	855	913	512	=	3,156
27	363	784	1,135	429	-	2,711
28	731	837	672	406	-	2,446
29	462	-	515	309	-	1,286
計	24,691	33,018	15,026	7,180	1,630	81,545

乃チ合計八一五四五ニシテ之ヲ七月九日當班業
 務開始以來南京市内ニ於ケル業績ヲ見ルニ

自七月九日	自七月十九日	自七月二十一日	自七月二十八日	自八月三十一日	九月	累計
一三三九七	一三三八七	一四一八三	一四一八三	一四一八三	一四一八三	一四一八三

ニシテ當班到着前同仁会第一診療班ニテ実施セ
 ルハ万余ヲ合シ總數三十六萬數千ニ達スル數字
 ヲ得ベシ
 九月未現在ノ南京市内人口ハ市政公署調査ノ總
 計九七、八三九戸三九二七一五入ト對比スル時點
 クトモ城外地区ノ一部遠隔不便ノ地域ヲ除キ南
 京市内ノ「コ」レヲ予防接種シハ完璧ニ近キ成績
 ヲ拳ケ得タリト云フベシ更ニ之ヲ南京市内現在
 人口ト實施總數ニツキ各區別毎ニ比較スルニ

種別	七月九日	七月十九日	七月二十一日	七月二十八日	八月三日	八月十日	八月十七日	八月廿四日	九月	計	公衆人口
第一区	5,465	22,491	23,301	21,868	9,169	10,541	4,733				
第二区	4,538	23,301	21,868	9,169	10,541	4,733					
第三区	2,078	21,868	9,169	10,541	4,733						
第四区	1,266	9,169	10,541	4,733							
第五区		10,541	4,733								
城外地区		4,733									
計	81,970	90,709	63,850	30,307	18,468	1,619					
公衆人口	89,608	89,346	46,675	36,799	10,099	120,188					

以上ノ數字ヲ再檢討スルニ南京市公衆人口三十
 九萬八千ニ公署當局カ聲明セル如ク更ニ四五
 萬ノ未登記ヲ免レサル所トシテ大畧四十五万内
 外ヲ教フルヲ以テ至當トスベク其ノ内
 一、上新河區
 二、燕子磯區
 三、孝陵區
 四、安徳門區
 計約十二萬中當班ニ於テ予防接種ヲ施行セルハ

僅ニ安徳門区ノ大部分及孝陵區ノ一部ニ過ズ
 從而比較的實數ニ近キ城外地區ノ十二万ヲ差引
 ク三十三三万内外ヲ以テ南京城内ノ人口ト目ス
 ラ得ベシハ第五区下関ハ接種地區トシテ便宜城
 内ニ算入スル從シテ表中見ル處ノ例ハ第五区
 ノ公称人口ト予防接種ノ數字ノ著シク齟齬セル
 ハ該地ガ下関地區ノ船着場所トシテ長江對岸又
 ハ近郊部落ヨリ舟便ニヨリ南京城内ヲ目指シテ
 歸ル避難民ノ足溜場所トシテ安居証並ニ予防接
 種証ヲ携帶ヲ入門ノ鉄則トスル關係上本區役所
 ニ依リ入城準備ヲナスハ當然ノコトニシテ其他
 中華門水西門等ニヨリテ南郊城外ヲ結グ第一区
 第二区ニ於テ該區居住者以外ノ予防接種ヲ爲セ
 ルニ依ルモノニシテ現ニ移動中ノ人口ニツマテ
 ハ已ムヲ得サル現象ナルベシ尚ホ常ニ携帶ヲ要
 スル安居証ノ破損等ニ基ク書替又ハ余リニ時日
 ラ經過セルガ爲城門衛兵ノ爲破棄セラレ函交付

ラ必要トシタ數可ナリニ多數ニ達シ其ノ都度予
 防接種ヲナセル爲ニ回多キハ三回ノ注射ヲナセ
 ルモノ尠カラズ從テ予防接種教ノ全部ヲ以テ全
 人口ニ比スルコトノ困難ナルハ當然トスルモ前
 記各般ノ例外事項ヲ充分考慮ニ入レテ尚且最小
 限度ニ見續ルモ九十%ニ達スル実績ヲ挙げ得タ
 ルモノト見做スラ得ベシ之ヲ過去南京ニ於ケル
 一三六四年ニ於ケル
 民國政府當局ノ市内予防接種教一三六四一ニ
 比シテ風俗ト慣習ヲ異ニスル殊ニ現時特殊感情
 ニ支配サレ勝ナ刻下南京ニ於テ最モ困難トサレ
 タコノ種事業ガ斯ノ如ク脅威的実績ヲ挙げ得タ
 ルハ一ニ關係軍各當局ノ適切ナル指導ニ俟ツモ
 ノ多シ

ニ菌檢索消毒
 コレラ菌檢索

入院患者各種菌検査

水質検査

死体解剖

一五八
一三

九月一日ヲ終迄トシテコレラハ市内ニ新発生ヲ見ズ從テ消毒班菌検査室トシテ前記終發一件並ニ公ニ日田中友部隊使役苦力一変死アリタル爲死体解剖ノ上部解剖菌検査並ニ三十六名ノ隔離者ニツキ検査ヲ行フモ異状ヲ発見セズソノ他小関兵站部ヨリノ要求ニヨリ二十八日以降市内指定箇所ニツキ井水ノ水質検査ヲ開始セリ小林支部長ハ同上二十七日上新河区ニ出張衛生狀況ヲ調査セリ

三 城内検査

前月ヨリ引續キ出勤セル南京中華門光華門水面門ノ検査消毒ハ二十五日以後「コレラ」概ネ終息ノ故ヲ以テ中止セリ乃チ右ニ関シ九月二十一日附岩松部隊軍医部長ノ名ニ依リ左記命令ヲ受領セリ

城門検査中止ノ件通牒

豫テ実施中ノ各城門検査ハ九月二十五日以降中止スルニ付通牒ス

四 診察班患者収容数

顧ミルニ八月十六日藤田部隊軍医部長ノ命ニ依リ城門検査消毒ヲ開始シテ以來実ニ四十一日間其間僅ニ九月中旬滿州事變紀念日前後一部検査ノ変更アリタル外出動ヲ命ゼラレタル検査員消毒員ハ晴雨ニ拘ハラズ午前五時半起床出勤シ夫々担当城門ヲ護リ午後七時半歸班夕食ヲ執ルノ勞苦ヲ續ケ未レリ折柄漸クコレラ續發ノ氣配濃厚ナリレ首都南京市民ヲレテ完全ニ恐ルベキ疫病禍ヨリ脱セシメタル功ノ一部ハ検査員努力ニ俟ツモノ勘ラズ

病名	入院	退院	延人員	摘要
夏季腦炎	1	1	9	
チブス	1	2	7	
赤痢	4	4	7	
コレラ	1	7	5	
ダブテリヤ	1	1	3	
赤痢様疾患	2	4	5	
計	13	29	67	

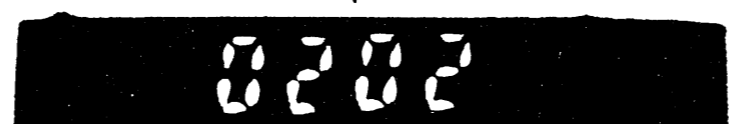
本年度發生コレラ患者ニシテ當班ニ於テ取扱ヘル總件數ハ八月十一日初發以來十名ニシテ内ニ名死亡(其ノ他ノ一名ハ死体解剖ノ結果コレラ菌發見)ニシテ收容中ノ七名ハ漸次快愈退院ニシテ二十日終發ノ杭平氏(四八)ノ退院ヲ以テコレラ患者一掃セリ

五 鎮江移動防疫班出張
鎮江方面ノ衛生狀況ニ鑑ミ南京特務機關長ノ命ニヨリ鎮江移動防疫班ハ大要左ノ如ク出發セリ

九月二十五日出發
 医員 佐藤雄三
 事務長 草壁龜雄
 技師員 椿竹次
 技師員 津々見仙南
 技師員 松島尉太郎
 技師員 宮川一多
 技師員 宮崎三太郎
 技師員 成瀨武夫
 技師員 謝長
 技師員 後藤喜代

九月二十七日出發
 技師員 宮崎三太郎
 技師員 成瀨武夫
 技師員 謝長
 技師員 後藤喜代

草壁事務長ハ二十六日後藤技師員ハ三十日夫々相當事務終了歸任セリ
 津々見班長ヨリ齋セル業務開始報告左ノ如シ
 町鎮江ニ於ケルコレラ發生ノ狀況ヲ檢スルニ七月二十八日初發以後一般市民二十五名並ニ



日本軍中二十五名ノ發生ヲ見タル由ニテ小関兵
 站支部野戰療養所第一班特務部第一班縣公署衛
 生処ノ防疫作業ニヨリ九月十三日終發以來發生
 ノ事實ナレバチブスレテ赤痢ト等ニツキテハ一
 般他ノ支那都市ト同様年中無休ノ状態ニシテ現
 ニ軍方面ニ収容中ノモノ約四十名市民中一二ア
 ルモノ、如シコマラリヤハ皇軍兵士中ニモ多
 教發生セルモノ、如シ命ニ依リ鎮江出張ヲ命ゼ
 ラレタル移動防疫班ハ二十七日現地到着ト同時
 ニ關係當局ト打合せ設營防疫機材ノ整備ヲ
 ナスト共ニ大體鎮江駐屯部隊千五百名ノ檢便並
 ニ接客業者ノ檢便一般市民ヲ防疫接種未了者約二
 万ノコレヲ予防疫接種ヲ目標トシテ行動ヲ開始セ
 リ

注射教 二十九日 一〇七
 三 十日 二六六
 檢便 二五〇

現ニ行動中ナリ軍以外医療設備トシテハ僅ニ特
 務部診療班大井醫師(無免許)ノ外ニキリスト
 教會外國病院一アルノミニシテ一般ニ診療班ノ
 設置ヲ熱望シツ、アリ將來ノタメ考慮ノ要アリ
 ト思料サル

六 人事

同仁會副會長宮川米次博士其他十二日來京當班
 視察ノ上当面必要事項指示アリタリ
 杭州診療班派遣ヲ命セラレタル医員佐々木利高
 ハ二十四日出発セリ

七 ワクチン分與

從來部ト不可分の關係ニ於カレタル特務機關地
 方班民衆班ノ請求アル都度及軍關係ノ特別要求
 アル場合コレヲワクチンノ分與ヲナシ來レルガ
 九月中ニ於ケル分與數ハ
 揚州班 六千人分



九月三日	金壇班	一万人分
全 十八日	管店班	一千五百分
全 二十六日	揚州班	五千分
九月二日	留南京	二万二千五百分
全 九日	留南京	五百分
全 九月二日	留南京	全
全 九月二日	留南京	全
九月二日	軍関係	千五百人分
全 九月二日	軍関係	三十人分
全 九月七日	軍関係	百人分
九月二十九日	軍関係 (ワグチス)	式万四千百三十分

等ニシテ七月以降ノ分與教合計ハコレヲワクチ
 ン四万七千六百十人ヲブスワクチン五千百人分

ハ其他ニ達セリ
 以上記述セル如ク當南京ニ於ケル本年期コレヲ
 ノ発生ハ八月十九日初發以來九月二日終發罹病
 患者僅ニ十名ヲ以テ終息セリ
 コレヲ年報ニヨレバ南京市ノコレヲ流行状況ヲ
 按ズルニ殆ンド毎年患者ノ発生ヲ見タルモ最モ
 激烈ナル流行ヲ現出セルハ千九百三十二年ハ民
 國二十一年手患者數實ニ尙千五百名ニ上リ市当
 局ニ於テモ殆ンドアラユル機關ヲ總動員シテ予
 防工作ニ狂奔セル結果予防注射數ノ如キ十三万
 六千四百二十ト報告シアルニモ拘ハラズ其ノ
 死亡數ハ三百八十六ノ多キニ達セリ
 最近ニ於ケル流行状況ニ関シテハ兵馬聽空ノ際
 トテ遺憾ナガラ統計資料ヲ発見シ得サルモ年々
 五月中旬ヨリ九月末日ニ亘リコレヲ流行ニ脅

威セラレタルノ一事ハ明瞭ナル事実ニシテ本年
 期一名ノ患者サヘ発生セザリシ第ニ並ニ第
 区役所職員並ニ区民ノ名ニヨリテ當支部ニ深甚
 ナル謝意ヲ表スルト共ニ彰表状ヲ贈リ來レルノ
 事實ニ見ルモ強ク支那一流ノ辭令トノミ解スベ
 ×筋ニアラズト思料ス
 要之本年期南京ニ於ケルコレノ流行ヲ右ノ程
 度ニ於テ頑強ニ喰止メ望道日本ノ仁術ヲ普ク宣
 佈シ併セテ宣撫ノ一端ノ實ヲ擧ゲ得タルハ眞ニ
 之レ御綾威ノ然ラシムル所ニシテ半面關係各
 方面ノ指導宜シキニ俟ツモノ多ク眞ニ感激ニ措
 ク能ハザルモノ多シ天佑ナル哉異郷ノ天地然モ
 大陸特有ノ酷暑ト戦ヒ凡ユル不利ナル狀況ヲ征
 服シテ然モ一人ノ落伍者スラヲ見ズ寧日ナキ防
 疫工作就中南京市民ノ大部分ニ施行セル予防注
 射晴雨ニ拘ハラス出勤セル檢疫消毒ノ間接工作

ヨリ患者発生ト同時ニ出勤セル消毒班ノ迅速適
 切ナル処置患者ノ収容隔離者ノ採檢便収容患者
 ノ診療手當等ノ直接業務ガ時ト場所ニ應ジ身ノ
 危険ヲ顧ミズ迅速機宜ノ不断ノ努力ニ依リテコ
 ノ所期ノ成果ヲ擧ゲ得タル若シ夫レ軍作戦ノ上
 ニ或ハ皇道宣佈ノ國策ニ聊カナリトモ貢献スル
 処アラシカ部員一同無上ノ光榮ニ感激セズンバ
 アラザルナリ

中支同仁会防疫部
 南京支部長
 小林 義 推



秘

診療事務月報

自昭和十三年九月一日
至昭和十三年九月三十日

中支同仁會防疫本部上海時疫醫院

[Faint, mostly illegible text, likely bleed-through from the reverse side of the page]

H-0255

0206

九月一日 (一般) 一 百田部隊南中地方病院療養收容所ヨリコレラ患者有收容方電話

アリタル付直ニ輸送班ヲ出勤セシメ該患者ヲ收容ス

九月二日 (一般) 一 本部ヨリ杭州ニ医員一名派遣方不達アリタルニ付田中医員後藤
助手出張ニ決定準備ニ忙殺ス

二 午後五時ヨリ午後九時迄停電並ニ断水ス

九月三日 (一般) 一 午後一時ヨリ楊樹浦ニ和田船富西医員並看護婦四名出張シコレラ
予防注射ヲ施行ス接種人員ニ七名

(人事) 一 谷口本部長井上次長末院等種々事務打合せ

二 東亜同文書日院校医中田三郎學生監中原忠末院學生生シテ

傳染病患者發生セルトキ入院セシメ度キ自依頼

三 午前七時田中医員後藤助手杭州ニ出張ス

九月四日 (一般) 一 特記事項ナシ

(人事) 一 蘇州ニ出張中吉見医員午後七時歸院ス

九月五日 (一般) 一 楊樹浦ニ和田船富西医員並看護婦四名コレラ予防注射施行シメ
出張ス接種人員ニ七名

二 入院中待療室備シテ船中備兵三名末院本日宿泊ス

(人事) 一 向島医員南中地方病院待療收容所ニ入院中待療室開シ打合せ多
出向ス

二 吉見医員軍特務部ニ出向シ蘇州出張状況報告ス

九月六日 (一般) 一 和田船富西医員並看護婦二名楊樹浦ニ出向シコレラ予防注射施行
接種人員ニ四名

(人事) 一 澤井本部長事務打合せ出向ス

九月七日 (一般) 一 和田船富西医員並看護婦二名楊樹浦ニ出向シコレラ予防注射施行
接種人員ニ四名

(人事) 一 澤井本部長宮川副會長出向シ上海ニ出向ス

070

九月八日(一般)一和富船富西医員並ニ看護婦二名楊樹浦出向シコレヲ予防注射ヲ施行ス

接種人員一八一名
ニ疑似赤痢患者一名軍持奉節ヲ入院ス

(人事)一宮川副會長長末院ヲ院内外巡視セリ

ニ宮川副會長、訓不ヲ受ケタ職責、而本部ニ出向ス

九月九日(一般)一向島船富西医員看護婦一名コレヲ予防注射施行ス楊樹浦出向ス

接種人員二六名

(人事)一澤班長、宮川副會長ト事務打合シ上海出向ス

九月十日(一般)一楊樹浦ニ吉見船富西医員看護婦二名出向シコレヲ予防注射ヲ施行ス

接種人員三六名

九月十一日 特記事項ナシ

九月十二日(一般)一コレヲ予防注射ス楊樹浦一向島和田西医員看護婦二名出向シ五名接種ス

ニ杭州ニ医員一名看護婦四名派遣方本部指示ヲ行テ諸準備忙極

(人事)一井上次長事務打合シ夕夕末院ス

ニ内山大尉末院ニ種々院準備ニ関シ打合セス

九月十三日(一般)一楊樹浦ニ吉見船富西医員看護婦二名出向シコレヲ予防注射ヲ施行ス

接種人員四六二名

(人事)一藤瀬事務長末院班長ト種々事務打合セス

九月十四日(一般)一楊樹浦ニ吉見和田西医員並ニ看護婦二名出向シコレヲ予防注射ヲ施行ス

接種人員三九名

(人事)一向島医員看護婦四名午前六時杭州ニ出張ス

九月十五日(一般)一コレヲ予防注射施行ス和田西医員看護婦二名楊樹浦ニ出向シ

三〇名接種ス

(人事)一井上次長官本少佐案内ニ文士尉岡園久米正雄外数名末院ス

ニ杭州ニ出張中田西医員午後七時歸院ス

070

九月十六日(一般)一コレヲ予防注射施行多和田医員看護婦一名楊樹浦出向二三五街
持種

一 本部梅毒防疫非長治愈退院
一 停電並電話午後五時不通トシ

(人事)一陸軍省衛生課長神林大佐末院トシ院内外巡視セシ
一 澤非長ニ非長會議出席多上海出向

九月七日(一般)一コレ患者一名疑病患者一名マリヤ患者名コレ保固者一名治愈退
院

(人事)一澤非長ニ上海軍特務部ヲ南催、幹部會議出席ス
廿六日(一般)一非長ニ医員事務員對シ幹部會議行議事項不達ス

(人事)一上海出向中澤非長歸院ス
九月十九日(一般)一疑似病患者一名治愈退院ス

九月二十日(一般)一慈善医院ニコレ患者一名發見ニ付收容シテ輸送非ラ出動セシ

コレトコ款患者、逃亡シテ空シ歸院ス

一 医員三名無錫ニ出張方指示シテ付澤非長船富医員出張ニ決定諸
種準備ヲス

九月二十日(一般)一 特記事項トシ
(人事)一 谷口部長井上次長南京小林文部長末院トシ種事務打合せス

九月二十日(一般)一 澤非長ニ事務打合せ本部出向ス
一 下ノ患者一名治愈退院ス

(人事)一 澤非長ニ本部ニ出向シ種事務打合せス
一 杭州ニ出張中、向島医員看護婦四名歸院ス

九月二十三日(一般)一 特記事項トシ
(人事)一 田中医員星野事務員看護婦四名杭州医院ニ移動ス

一 澤非長ニ事務打合せ多軍特務部出向ス
九月二十四日(人事)一 澤非長船富医員無錫ニ出張ス



九月二十五日

特記事項

九月二十六日(一般) 慈善医院に發見、市病患者一名輸送班に出動し收容

(人事) 杭州医院中島主任外数名院見學、夕、未院

九月二十七日(一般) 市病患者一名于スス患者一名治癒退院

(人事) 杭州医院星野事務員末院宿泊

九月二十八日(一般) 特記事項

(人事) 井上次長末院に種々事務打合せ

九月二十九日(一般) 特記事項

(人事) 飯田事務員事務打合せ本部に出向

九月三十日(一般) 肺結核患者一名治癒退院

(人事) 宿泊中、星野事務員杭州へ歸任



文化事業部長

第二課長

昭和十三年六月廿五日接受

佐々木

第四二三號 昭和十三年六月下旬

同仁會

六月十一日(診療) 外田濟南班長ヨリ徐州ニ進出ノタメ診療分班編成ノ報告アリ

本部階上ニ於テ午前十一時半ヨリ第四診療班送別式ヲ行フ
越川班長以下三十八名及本部職員出席田邊理事ヨリ送別ノ
挨拶ニ對シ越川班長ヨリ謝辭アリ冷酒ノ乾杯ヲ爲シ午後零
時半散會ス

(經理) 青島班及第四診療班ヨリ五月分豫算差引表全收支證憑書提
出アリ

十二日(人事) 越川第四班長午前九時東京驛出發ニ付文化事業部林一課長
、田邊專務理事、増田、中村兩理事、金子院長及本部員其
他見送ヲ爲ス

杭州班へ赴任ノ青木醫長午前十時四十五分東京驛出發ニ付
田邊專務理事、小野理事、小澤部長、江本主事見送ヲ爲ス
武正杭州班長ヨリ十一日全員杭州著班ノ行動上自動車ノ必
要アリ乗用車ト運搬車急送方電報アリ

62
3.8
12

十三日(一般) 大藏大臣へ外國へ送金報告書ヲ提出ス

外田濟南班長ヨリ汽車故障ノタメ徐州へ出發遅延ノ電報アリ

武正漢口班長ヨリ十一日全員杭州へ到着ノ電報アリ

滿州醫科大學長ヨリ支那研學生推薦ノ回答アリ

寺内部隊山本軍醫部長へ越川軍醫中將太原診療班長トシテ
出發ノ件打電ス

第四診療班日高醫員外十四名午後十時三十分東京驛出發ニ
付文化事業部小林囑託、田邊專務理事、江本、生島、梅本

、高橋及第四班員見送ヲ爲シ萬歲聲裡ニ出發ス

十四日(一般) 青島班ヨリ會計検査院ノ實地検査ハ検査官ノ都合ニ依リ一
時取止ノ報告アリ

傳染病研究所ヨリ對支防疫用トシテコレラワクチン二千瓶
(價格二千圓)寄贈アリ

文化事業部長ヨリ漢口醫院診療班杭州へ到着ノ件通牒アリ
漢口醫院職員家族へ診療班十一日杭州へ到着ノ件通知ス

文化事業部長へ支那研學生派遣ノ件報告ス
北京醫院及各診療班へ支那研學生派遣方通牒ス
各醫科大學長へ支那研學生派遣先通知ス

(人事) 北支防疫班江崎事務長午後一時三十分東京驛出發ニ付田邊
事務理事小澤部長、藤田主事、江本主事見送ヲ爲ス

(經理) 濟南診療班ヨリ本年度前半期所要經費概算書提出アリ
十五日 (一般) 外務大臣へ申請シタル補助金振當方ノ件承認セラレ

文化事業部へ職員異動報告書ヲ提出ス

(人事) 北支防疫部高木部長午後十一時東京驛出發ニ付文化事業部
林一課長、田邊事務理事、増田理事、江本主事、穂坂囑託
梅本雇見送ヲ爲ス

(經理) 第四診療班ヨリ經費概算調書提出アリ
十六日 (一般) 大藏大臣ヨリ外國爲替買入ノ件特別許可アリ

(人事) 文化事業部林第一課長來部
入澤理事來部
新城上海自然科學研究所長來部

十七日 (一般) 外務大臣へ本會建物増築ニ付許可方申請ス

文化事業部長ヨリ第四診療班ニ對シ陸軍省ニ於テ便宜供與
方ニ關スル通牒アリ全班長へ移牒ス

十八日 (一般) 鹽澤北京醫院長ヨリ申請ニ係ル買受敷地内ノ建物一部ヲ傳
染病舎ニ改修ノ件承認

南京第一診療班ヨリ南京醫院建設趣意書第二回業務報告書
五月分月報五月末日現在藥品在庫高調書提出アリ

杭州武正班長ヨリ十八日ヨリ診療開始ノ旨電報アリ
徐州外田濟南班長ヨリ十七日班長以下十三名徐州等ノ電報アリ

北京醫院ヨリ會計検査院河本検査官ノ實地検査ハ全官ノ都
合ニ依リ今回ハ實施セサルコトトナリタル旨報告アリ

文化事業部長へ杭州診療班武正班長事務打合セノタメ上京
セシメタキニ付杭州領事へ指示方依頼ス

上海特務部長へ武正班長事務打合ノタメ上京セシメタキニ
付承認方打電ス

本句中往復文書

官川副會長來郡田邊事務理事ト共ニ午後二時外務省ニ宇垣
外務大臣ヲ訪問本會ノ事業ニ關シ説明ヲ行フ

收受 八二通

發送 一〇四通

H-0255

0213

六月十一日(診療) 外田濟南班長ヨリ徐州ニ進出ノタメ診療分班編成ノ報告アリ

本部階上ニ於テ午前十一時半ヨリ第四診療班送別式ヲ行フ
越川班長以下三十八名及本部職員出席田邊理事ヨリ送別ノ
挨拶ニ對シ越川班長ヨリ謝辭アリ冷酒ノ乾杯ヲ爲シ午後零
時半散會ス

(經理) 青島班及第四診療班ヨリ五月分豫算差引表全收支證憑書提
出アリ

十二日(人事) 越川第四班長午前九時東京驛出發ニ付文化事業部林一課長
、田邊事務理事、増田、中村兩理事、金子院長及本部員其
他見送ヲ爲ス
杭州班へ赴任ノ青木醫長午前十時四十五分東京驛出發ニ付
田邊事務理事、小野理事、小澤部長、江本主事見送ヲ爲ス
武正杭州班長ヨリ十一日全員杭州著班ノ行動上自動車ノ必
要アリ乗用車ト運搬車急送方電報アリ

十三日(一般) 大藏大臣へ外國へ送金報告書ヲ提出ス

外田濟南班長ヨリ汽車故障ノタメ徐州へ出發遅延ノ電報アリ

武正漢口班長ヨリ十一日全員杭州へ到着ノ電報アリ
滿州醫科大學長ヨリ支那研學生推薦ノ回答アリ
寺内部隊山本軍醫部長へ越川軍醫中將太原診療班長トシテ
出發ノ件打電ス

第四診療班日高醫員外十四名午後十時三十分東京驛出發ニ
付文化事業部小林囑託、田邊事務理事、江本、生島、梅本
、高橋及第四班員見送ヲ爲シ萬歲聲裡ニ出發ス

十四日(一般) 青島班ヨリ會計検査院ノ實地検査ハ検査官ノ都合ニ依リ一
時取止ノ報告アリ

傳染病研究所ヨリ對支防疫用トシテコレラワクチン二千瓶
(價格二千圓)寄贈アリ

文化事業部長ヨリ漢口醫院診療班杭州へ到着ノ件通察アリ
漢口醫院職員家族へ診療班十一日杭州へ到着ノ件通知ス

本句中往復文書

官川副會長來都田邊事務理事ト共ニ午後二時外務省ニ字垣
外務大臣ヲ訪問本會ノ事業ニ關シ説明ヲ行フ

收受 八二通

發送 一〇四通

H-0255

0215

文化事業部長へ支那研學生派遣ノ件報告ス
北京醫院及各診療班へ支那研學生派遣方通牒ス
各醫科大學長へ支那研學生派遣先通知ス

(人事) 北支防疫班江崎事務長午後一時三十分東京驛出發ニ付田邊
事務理事小澤部長、藤田主事、江本主事見送ヲ爲ス

(經理) 濟南診療班ヨリ本年度前半期所要經費概算書提出アリ
十五日(一般) 外務大臣へ申請シタル補助金振當方ノ件承認セラル
文化事業部へ職員異動報告書ヲ提出ス

(人事) 北支防疫部高木部長午後十一時東京驛出發ニ付文化事業部
林一課長、田邊事務理事、増田理事、江本主事、穂坂囑託
梅本雇見送ヲ爲ス

(經理) 第四診療班ヨリ經費概算調書提出アリ
十六日(一般) 大藏大臣ヨリ外國爲替買入ノ件特別許可アリ

(人事) 文化事業部林第一課長來部
入澤理事來部
新城上海自然科學研究所長來部

十七日(一般) 外務大臣へ本會建物増築ニ付許可方申請ス

文化事業部長ヨリ第四診療班ニ對シ陸軍省ニ於テ便宜供與
方ニ關スル通牒アリ全班長へ移牒ス

十八日(一般) 文化事業部へ防疫班員動靜ノ概要ヲ報告ス
鹽澤北京醫院長ヨリ申請ニ係ル買受敷地内ノ建物一部ヲ傳
染病舎ニ改修ノ件承認

南京第一診療班ヨリ南京醫院建設趣意書第二回業務報告書
五月分月報五月末日現在藥品在庫高調書提出アリ

杭州武正班長ヨリ十八日ヨリ診療開始ノ旨電報アリ

二十日(一般) 徐州外田濟南班長ヨリ十七日班長以下十三名徐州著ノ電報アリ
北京醫院ヨリ會計検査院河本検査官ノ實地検査ハ全官ノ都

合ニ依リ今回ハ實施セサルコトトナリタル旨報告アリ

文化事業部長へ杭州診療班武正班長事務打合セノタメ上京
セシメタキニ付杭州領事へ指示方依頼ス

上海特務部長へ武正班長事務打合ノタメ上京セシメタキニ
付承認方打電ス

秘

中支同仁會防疫本部上海支部半月報 自昭和十一年八月十六日 至同 八月三十日

一部隊名 中支同仁會防疫本部上海支部

二編成 異動ナシ

三行動

(一)防疫班行動

(二)八月十六日 井上支部長以下二名業務打合せ、南京支部

二出張同十八日歸還

(三)八月十七日 蘇州水質検査、樽美藥劑員以下三名出發同

二十一日歸還

(四)八月二十一日 南京水質検査、中村藥劑員以下二名出發

同三十日歸還

(五)八月二十三日 通州ニ派遣中、移動防疫班々長吉田医員以下

七名歸還

(六)八月二十六日 蘇州及常州ニ移動防疫班々長吉見医員以下

七名派遣

(七)細菌検査件数 (部内作業)

(1) 検査總数 一三七八

(2) 患者検査数 二〇六
ウチ、コレラ菌検査 一

(3) 健康者検査数 一一七二
ウチ、コレラ菌検査 二

(七) 尿、検査 四二

(八) ウチ、ゲール反應 二七

(九) 血液膽汁培養 二六
ウチ、チフス菌検査 五

(十) マラリア原虫検査 二
ウチ、プラスモチウム陽性 二

(出)消毒班派遣回数
 (出)水質検査件数

八
 一七

(ロ)特殊診療班行動

(一)診療患者数

累計進人員

コレラ	二	一五	二二五
チフス	二	三	三四
パラチフス	二	二	一五
マラリア	二	三	一七
疑似赤痢	二	二	四
赤痢	一	一	一

肺結核

一

チフス観望

二

二

健康隔離

一四

八四

計

一三

四三

死亡者

一

(チフス)

外来者 ナシ

移動診療

二回 (通州及蘇州)

(二)コレラ豫防注射数

八月二十六日

三七〇

(浦東平安ドック)

四、特記事項

- 一、杭州移動防疫班ヨリ梅田班長以下三名、傳染病患者發生
- 二、通州移動防疫班ヨリマラリア患者一名發生

五
意
見

月報ニエツル

一秋山技術員通州移動防疫ヨリ歸還後精神果状(以前ヨリ
リノ症状ヲ認ム状態悪化シ八月二十四日深谷部隊ニ収容ス

一秋山技術員通州移動防疫ヨリ歸還後精神果状(以前ヨリ
リノ症状ヲ認ム状態悪化シ八月二十四日深谷部隊ニ収容ス

秘

防疫本部事務半月報

自昭和十三年八月十六日
至同三十一日

中支同仁會防疫本部

本報係由本會防疫本部編輯

本報之目的在於報導防疫本部之業務

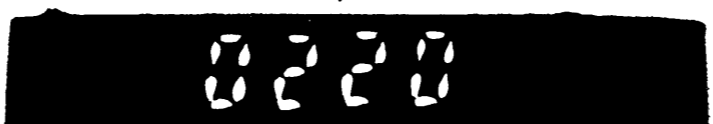
並以供防疫本部之參考

本報之內容包括防疫本部之業務

及防疫本部之研究報告

本報之編輯由本會防疫本部負責

本報之印刷由本會防疫本部負責



防疫事務半月報 第三号

自昭和十三年八月十六日
至同 三十一日

中支同仁會防疫本部

八月十六日(一般)一、中務助手磯野機関手池羽、矢倉運轉手瀨山、碼頭ヨリ「ワクタン」事務用品等梱包運搬ス

二、渡辺兵站支部ニ於テ連絡會報アリ澤班長出席ス

(人事)一、井上次長、田中技術員南京支部へ出張ス

七日(人事)一、樽美藥劑員、淺井、後藤助手水質検査、為メ

蘇州へ出張ス

六日(人事)一、タイピスト蓮井ユキ子「バラチブス」疑

為時疫醫院へ入院

二、運轉手植園、暇吉自動車事故ニヨリ負傷、タメ第

六兵站病院ニ入院ス

三、井上次長南京ヨリ帰任

四、宮本少佐、案内ニテ陸軍省大塚文郎軍醫少佐及

赴任途上、同仁會第三診療班員四名視察アリ

十九日(一般)一、本日ヨリ自警團解散

二、谷口本部長、藤瀬事務局長、第六兵站病院長ヲ訪

問ス

二十日(一般)一、上海市政公署養老院ニコレラ患者發生、為末松醫員

大河原技術員、諏訪助手磯野機関手、出勤消毒、

採便ス

(人事)一、助手小林敏夫、腸チブス疑、為時疫醫院ニ入院ス

二十日(人事)一、蘇州出張中、樽美藥劑員淺井、後藤助手帰任

二十日(人事)一、梅田班長、腸チブス、東事務員赤痢ニテ時疫醫院

ニ入院

ニ水質検査、為中村藥劑員梅澤助手南京へ出張
二十三日(一般)「コレラワクチン」ニ梱包(九〇〇人分)軍特務部へ交付(蘇
州送り)

ニ秋山藥劑員精神異状ヨリ午後十時頃時疫醫院
前ノ雜草地ニ逃亡セルヲ以本部員特殊診療班員ヲ
招集シ搜索ノ結果黃浦江ニ投身セルヲ發見シ應
急手當ヲ加ヘ時疫醫院ニ入院監視ス

(人事)一通州移動防疫班吉田醫員以下七名帰任ス

二十四(一般)一藤瀬事務長秋山藥劑員ノ處置ニ関シ軍特務
部宮本少佐ヲ訪問懇談、結果深谷隊本院へ小林
技術員ヲ附添ハシ入院セシム
ニ特務部ヨリ蘇州移動防疫班編成命令ヨリ

(人事)一南京支部小関調劑員衛生材料受領、為未部

ニ同仁會瀨尾班長豫防注射、併ニ関シ未部

二十五(一般)一海保事務員外六名郵船碼頭ヨリ生石灰二百四十個
本部へ運搬ス

ニ中支碇泊場監部管理平安船渠員等ヨリ豫防注
射ニ関シ市川流治氏未部ヨリ特殊診療班ヨリ派遣
スレト決定ス

二十六(一般)一磯野機関手外五名ヲ生石灰三百五十八個ヲ運搬ス

ニ改造中ノ食堂及炊事場被成ス

(人事)一移動防疫、為吉見西末松醫員桶谷技術員古

谷、中務助手蘇州へ出發ス

二十七日(一般)一事業經過報告業務報告(第一回)軍特務部及同仁會

本部へ提出ス

二十日(人事)一、竹下部隊河田隊長移動ニ付挨拶、為来部

二、五家宅駐屯、警備隊副官新任挨拶、為来部

二十九日

一、特記事項ナシ

三十日(一般)一、南市喬家柵三十一号ニコレヲ患者殺生セル旨憲

兵分隊ヨリ通知アリタルニヨリ西村根井医員外四名

出動シ逢来分院ニ入院中ノ患者ヲ時疫医院ニ輸

送シ患者ノ住家ヲ消毒同居人ノ採便ヲナセリ

二、軍特務部ヘ「チブスワクテン」四十名分交付ス

(人事)一、東事務員全快退院ス

二、南京出張中ノ中村藥劑員梅澤助手帰任

三十一日(人事)

六名ヨリト蓮井ヲギ子全快退院ス

二、南京出張中ノ田中技術員帰任

62



臨時防疫第二三七八號

文化事業部 第一課ノ二

昭和十四年一月七日

臨時對支防疫事務局

代表者 宮川 米

外務省文化事業部長 三谷 隆 信 殿

中文防疫部業務報告提出方ノ件

一、上海支那防疫業務月報 第五號 一部

一、南京支那業務報告 第六報 一部

右提出ス

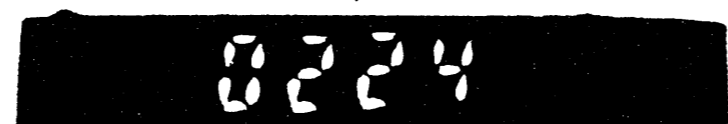


昭和十四年一月七日 接収

Handwritten signature and notes

同 仁 會

H-0255



昭和十三年十一月



業務報告 (第六回)

中支同仁會防疫部南京支部
軍特務部南京防疫部
軍特務部防疫部南京診療所

H-0255

0225

十一月業務月報

一編成

全員三十八名中津々見医員外十五名ヲ鎮江ニ
送り支部長以下二十三名ヲ以テ南京支部業務
ニ就ケリ

二コレヲ豫防注射

前月中旬各區公所ノ出張注射ノ打切り後主ト
シテ上海方面ニ旅行スルモノノ便宜ノ爲班内
ニ於テ特ニ要求アルモノ一三四名ニ對シテ注
射セリ

三種痘

十一月上旬上海ニ天然痘發生セリトノ警報ニ

接シ三種痘ニ必要ナル機械ノ整備ヲ忙グト同時
ニ上海ニ於ケル天然痘ガ主トシテ日本人ニ感
染ノ傾向アルヲ察知シ先ツ十一月十一日軍特
務部ノ命ニ依リ本部職員並ニ使役支那人百十
名十三日南京特務機關員三九名ニ對シテ種痘
ヲ實施セリ尚帝國總領事館並ニ居留民團ト
協議ノ結果十四十五ノ兩日領事館職員家族及
一般居留民ニ對シテ種痘ヲ實施セリ引續キ
南京督辦公署ト緊密ナル連絡ノ下ニ十二月一日
以降ノ種痘計畫ニ付キ協議ヲナスト同時ニ
先ツ二十一日公署職員ノ種痘ヲ手初メトシテ
二十三日以降南京市内市立小學校二十二校ノ
児童ニ對シ各校ニ出張ノ上種痘ヲ實施セリ
尚特ニ今回上海ニ於ケル天然痘ノ感染ガ日本
人方面ニ多キニ鑑ミ特ニ右小學校児童ノ中

第一第二小學校三百餘名ノ種痘ニ當リテハ、
併用シテソノ發痘力ヲ比較セリ
十一月中ニ於ケル種痘者數七八二八名（内
本人一五一三名）ニ達セリ

四、菌檢索

菌檢索數 二〇二。水質検査 二五件。
マラリヤ原虫檢索 二六五七
本月中料亭妻鶴、藝妓一名、台湾青果會社、
所店負一名、赤痢患者發生、爲總領事館、委囑
ニ依リ前者ニ於テ六四後者ニ於テ一〇ノ保菌
調査ヲナセリ 他、收容患者ニ對スル腸チフ
ス、パラA日型、赤痢菌、檢索及山本信部隊患者
ノ赤痢アメリバーノ檢索ナリ

其ノ他市内第一、二、三、四、五、各井戸水ニ就キ
一日數回一定時間ノ間隔ヲ以テ水質検査並ニ
井水消毒藥ノ効力検査ヲ實施セリ
前月ニ引續キ岩松部隊、委囑ニ依リ山崎部隊
細谷部隊、マラリヤ原虫保有調査ヲナスト同
時ニ第一診療班新患者並ニ市内各中小學校生
徒兒童田中友部隊、南京農場負等ニ六五七件ノ
マラリヤ原虫檢索ヲ實施セリ

五、特殊診療班患者收容數

入院 一六名（内日本人九名）
退院 九名（内日本人七名）
延人負 二〇〇名

系統ノ疾患最多數ヲ占ム、中ニ結核性ト疑ハ
 ルルモノ相當多シ、次ニ位スルモノハマラ
 リヤ症ニシテ現在熱發等ノマラリヤ症狀ヲ
 訴ヘザルモ長年ノ原虫保有ニヨル脾腫消
 器障害神經症狀等ヲ主訴トシテ來リ採血檢
 査ニヨリ診斷ヲ確定シ得ル如キモノ相當數
 ヲ占ム、脚氣ハ目下ノ處多クラズ、其他原
 因不明ノ全身營養障害ヲ來シ居ルモノモ亦
 尠カラズ、
 外科 最モ多キハ下腿潰瘍ニシテ之ニ次クハ
 膿瘍及一般外傷ナリ、
 皮膚科 泌尿器科 最モ多キハ疥癬ニシテ約半
 數ヲ占ム、小兒ノ濕疹及膿痂疹モ多シ、
 花柳病殊ニ淋病相當數ヲ占ム、
 眼科 トラホーム斷然最多數ヲ占ム、而モ大多

數ハバン又ス眼瞼内瞼睫毛亂生等ヲ合併ス
 次ニ翼狀贅片多ク何レモ觀血療法ヲ要スル
 モノナリ、急性結膜炎相當數アリ、
 又ヴイタミン缺乏ニヨル角膜軟化症五名ヲ
 見タリ


(第一表) 患者日計 別紙参照
 (第二表) 病類別統計 別紙参照

六、其他
 當月ニ於ケル業務ハ鎮江醫院診療天然痘ノ發
 生ニ伴フ種痘及一般マラリヤ原虫保有率調査
 ニ重点ヲ置ケリ、特ニ鎮江ニ於テハ一般民衆
 ノ交通ニ對シ種痘證攜帶ヲ絶対條件トセル爲
 ソノ數字ノ不ス如ク一万四千ヲ突破シ尙木繼
 續實施中ナリ、南京市内ニ於テハ未ダシノ慮



ヲ免レズ
一方支那民衆及駐屯部隊ノマラリヤ原虫保有
調査ハ十二月ヲ以テ大体終了ノ豫定ナリ
以テ

中支同仁會防疫部南京支部長

小林 義雄 

H-0255

0229

第一表

患者日計表

昭和十三年十一月分

鎮江醫院

計	三〇	三九	二八	二七	二六	二五	二四	二三	二二	二一	二〇	一九	一八	一七	一六	一五	日計
四二〇	六二	三三	六六		四八	四二	三七	三三	二〇	三二		二三	一五	六	三		内科小児科
四六六	六九	六三	六七		五一	四七	三九	三九	二七	二三		二〇	九	七	五		外科
三六五	六一	七〇	五八		三九	四二	二七	二六	二一	三		九	八		一		眼科
四四七	六八	五五	四八		三八	五二	四六	三三	三四	十六		二三	二〇	一四			泌尿器科
一七一八	二六〇	二二一	二三九		一九六	一八三	一四九	一三一	一〇二	七四		七五	五二	二七	九		計

第二表 病類別統計表

十一月分

病身及傳染病		外科		内科		小児科		皮膚科		泌尿科		眼科		合計		備考	
(一) 全身病	コレラ	二	一														
	赤痢	一	一														
	腸チフス	一	一														
	傷寒	一	一														
	猩紅熱	一	一														
	チフス熱	一	一														
	流行性脳脊髄膜炎	一	一														
	麻疹	一	一														
	風疹	一	一														
	回帰熱	一	一														
	流行性感冒	一	一														
	肺結核	一	一														
	其他結核	一	一														
	中毒	一	一														
	其他全身病	一	一														
(二) 神経系病	精神病	一	一														
	其他神経系病	一	一														
(三) 呼吸器病	肺炎	一	一														
	其他呼吸器病	一	一														
(四) 消化器病	急性胃腸炎	一	一														
	慢性胃腸炎	一	一														
	急性腸炎	一	一														
	慢性腸炎	一	一														
	急性腸炎	一	一														
	慢性腸炎	一	一														
	急性腸炎	一	一														
	慢性腸炎	一	一														
(五) 泌尿器病	急性腎炎	一	一														
	慢性腎炎	一	一														
	急性腎炎	一	一														
	慢性腎炎	一	一														
(六) 眼病	急性眼炎	一	一														
	慢性眼炎	一	一														
(七) 耳病	急性中耳炎	一	一														
	慢性中耳炎	一	一														
(八) 鼻病	急性鼻炎	一	一														
	慢性鼻炎	一	一														
(九) 喉病	急性喉炎	一	一														
	慢性喉炎	一	一														
(十) 皮膚病	疥癬	一	一														
	其他皮膚病	一	一														
(十一) 外科	骨折	一	一														
	其他外科	一	一														
(十二) 運動器病	骨節炎	一	一														
	其他運動器病	一	一														
(十三) 其他	不明	一	一														
合計		二八	二八	一	一	二	二	五	一	八	二	二	二	七	四	六	八

秘

昭和十三年十一月(自十一月廿一日)

防疫業務月報 第五號

中支同仁會防疫本部
上海支部

防疫部
支那支部

H-0255

昭和十三年十一月(自三十日)	
防疫月報	
上海	地名
上海支隊	支隊名
上海支隊本部	本部名

目次

- 第一 部員移動
- 第二 防疫班部内作業
 - 一、病的材料検査
 - 二、水質検査
 - 三、消毒班ノ派遣
- 第四 上海ニ於ケル種痘實施
 - 一、南市小學校職員及兒童ノ種痘
 - 二、上海臨時防疫委員會依歸ノ種痘
 - 三、上海市住民ノ種痘
 - 五、痘苗配布數量
 - 六、移動防疫
 - 第七 部員健康狀態
 - 第八 意見

第一 部員移動

十一月中ニ於ケル部員ノ編成
十一月六日防衛班技衛助手山谷幸治南京支部へ勤務替ノ發令アリ、十一月七日南京ニ向ケ出發セリ。其ノ他ニハ移動ナシ

第二 防疫班部内作業

一病的材料検査

十一月中ニ於ケル依託病的材料検査總數ハ四三三件ニシテ、其ノ内譯次ノ如シ

- 1、患者検査便數 一七八 赤痢菌檢出數 二
- 2、健康者検査便數 ナシ コレラ菌 一
- 3、尿中菌檢案件數 八六 チフス菌檢出數 一
- 4、ウイグル反應件數 六三
- 5、血液膿汁培養件數 六〇 パラチフスA菌檢出數 一
- 6、血液毒反應件數 三九 チフス菌檢出數 一

- 7、マラリア原蟲染色 二
- 8、咽喉粘液中菌檢索數 五

右細目ヲ表示スレバ次掲第一表ノ通りトナル

第一表 病的材料検査成績

(自十一月三十日)

日	検査		糞		尿		血液		膿汁培養	反氏ワ	ヤリラマ
	總數	研檢	患者	健康者	研檢	患者	研檢	患者			
八	八	二			三						
七	二〇	五			一					二	
六	一四	三			四						
五				一							
四	一四				二					五	
三	一三				一						
二	六									一	
一	七				三						
總數	七四				一三					八	



右第一表中腸炎ノ球菌ヲ検出セルモノ八名、パラA菌二名、コレラ菌一名、咽嚥粘液連鎖球菌一名、赤痢菌ヲ證明ナルモノ一名、其ノ氏名次表ノ如シ

計	三〇	二九	二八	二七	二六	二五	二四	二三
四三三	四八三	八	二五	八	二二	三一	一七	八
赤コ全 一五八 〇	一八三	六	五	五	八	一八	六	六
〇	三		二			六		四
八六五 七	一六三	一	四	一	七	四	四	
	三	一	五	二	三	一	四	一
六								
六三四 二	二		四		三	一	一	
七二七			一					二
三九	一		四			一		
咽マ 五二						咽嚥 粘液 連鎖 球菌		

二三	二二	二〇	一九	一八	一七	一六	一五	一四	一三	一二	一一	一〇	九
一三	二二	七	二二	九	一四	一四	三	一八	一〇	一六	一六	二〇	一二
六	四	五	五	二	五	五			八	七	六	〇	二
						二		一					一
										二	五	六	六
五	三		四	一	一	一			二	三	六	六	四
一	二	一	二	二	四	二	一	一				二	二
													一
子一 二	一	一		二	四	二	一	一		一		二	四
	一							子二 二					
									一三				
	一〇			二									
													咽嚥 粘液 連鎖 球菌
													咽嚥 粘液 連鎖 球菌

第二表

回数	氏名	年令	職業	所属名	決定日	病名
第一回	石橋利久		兵	吉住部隊看護部	二、一二	パラチルスA菌
第一回	清水きみ子		看護婦	大日本赤十字 水多班 救護班	〃	チフス
第二回	清水きみ子		〃	〃	二、一三	チフス
第三回	清水きみ子		〃	〃	〃	チフス
	酒井健一		兵	宮島部隊	二、一五	コレラ
	栗村雪江	二一		信原内科医院	二、二一	チフス
	福永侃二			中支派遣烟部隊 本部原田隊	〃	咽喉結核 連鎖球菌
	眞田眞一	二三	兵	中野部隊	二、二九	チフス
	中澤直一		兵	毛利部隊	二、二七	赤痢
	城政彦	二三		土部部隊 佐藤勝部隊	二、二九	チフス
	藤原原隆	二一	兵	藤原部隊 毛利部隊	二、三一	チフス
	木原綾一	二六		中支停泊所 監部蔵取三六号	二、二七	チフス

第三表

合計	計	三一	二六	三五	二四	二二	一四	八	一〇七	計	二九	二六	二三	二一〇二	一六四五	一四〇三	一二三三	九九八	九七三〇	月	
																				日	日
三										三										便	東亞同文書院
一										一	一									便	藏原醫院
二	二						二													便	信原内科醫院
一	一				一															便	南里石井藤崎裕豐沙軍特務部
																				便	計
二				二																便	
二	二			一		一														便	
																				便	
一	一	一																		便	
																				便	
一	一			一																便	
																				便	
二	二							一	一											便	
五	一									五			三	一〇	四	一〇	一	九	三		
三	二			四	一	一	二	一	一	五	二	二	一	二	五	三	二	八	〇		
七		一	一																		

本部が上海北四川路東和洋行内ニ事務室出張所ヲ設ケ十月二日以来上海醫師會其ノ他ヨリノ病的材料検査ノ依頼ヲ受付タルコトハ前月々報ニ記載セル所ナリ。之ガ十一月中ノ受付件数ヲ調査スルニ其ノ總數七十二件ニシテ内譯次ノ如シ。

- 一、糞便検査件數 一一
 - 二、グイール反應件數 三
 - 三、膽汁血液培養件數 一七
 - 四、微毒血清反應件數 三九
 - 五、マツリヤ検査數 二
- 計 七十二

之ヲ當出張所ニ於ケル受付開設當初ノ件數一二ヲ加算スレバ合計八四件トナリ更ニ開設ニ先ツテ東亞同文書院ヨリ依頼サレタル検査物五二五件ヲ之ニ加フレバ總計 六〇九件トナル。其ノ詳細ヲ表示スルコト次ノ如シ(第二表及第三表)

二 水 質 檢 査

十一月中ノ水質検査總數ハ八件ニシテ何レモ南市井土部隊井戸水ヲ二十一日ヨリ毎日一回採水シ施行セルモノナリ。採水ノ結果同部隊井戸水ハ飲料ニ不適當ナリト斷定ス。

該井戸水ハ主トシテ同部隊ノ炊事並ニ浴場用トシテ使用セラレ、其ノ井戸ノ構造ヲ見ルニ大約直徑六寸ノ鐵管ヲ地下四百尺ニ鑿穿シ午前四時ヨリ午後九時迄十七時間揚水スルモノニシテ其ノ水量豐富ナルモノノ如シ別表記載ノ本試験成績ヲ見ルニアンモニア、亞硝酸及夕日ノ含有量極メテ大ナルハ注目スベキモノナリ。吾人ガ該井戸水ヲ九月中一例採水シ、検査シタル成績ト比較スルニ今回ノモノハ夕日ノ含有量ノ多少増加シタルニ過ギザリキ。

而モ斯様ニアムニアンモニア、亞硝酸ノ含有量多キ傾向ヲ示セルモノ二十四、二十五日ノ兩日ハアンモニアヲ痕跡ダニモ含有セズ、且二十四、二十六、二十九日ニハ亞硝酸ヲ認めザルコトアリタルモ全検査ヲ通ジ夕日ノ含有量多量ナルコト及アンモニア或ハ亞硝酸ノ何レカヲ含有セルヲ以テ該井

第五表 水質検査成績表

所在地	構造	反底	清濁度(色濁度)	臭味	酸味	硝酸	硫酸	亜硫酸	ヨウ素	窒素	硬度	総酸	総碱
井上部隊	22日	無底	無濁	微臭	少量	ナシ	微量	少量	518.75	4.277	241.25	2	0
"	23日	"	"	"	"	"	"	"	588.20	4.277	230.00	0	0
"	24日	"	"	"	ナシ	"	"	ナシ	584.65	3.619	241.25	0	0
"	25日	"	"	"	微量	微量	"	微量	584.65	3.948	297.50	0	0
"	26日	"	"	"	多量	ナシ	"	ナシ	584.65	5.264	219.25	0	0
"	27日	"	"	"	"	"	"	少量	584.65	5.264	230.00	11	6
"	29日	"	"	"	少量	"	"	ナシ	511.15	4.935	207.50	10	4
"	30日	"	"	"	微量	微量	"	少量	581.10	5.593	252.25	0	0

戸水ハ飲料ニ不適當ナル域ヲ脱シ得ズ

第四表 水質検査成績表

第三 消毒班ノ派遣

一、十一月八日午前十時渡邊兵站南支那支部ヨリ電話アリ。天然痘患者發生セルヲ以テ消毒班ノ派遣方ヲ懇請サレタリ。即チ患者ハ日本人平田岩松(四七才)ニシテ上海虹口篠崎醫院ニ入院中診察確定セルモノナリ。發病場所ハ僱租界南端黃浦江外灘第五下土喃南、日本會社ベージュ會社ナリ。依ツテ直チニ吉田、末松兩醫員、古谷、原島兩助手、青柳運轉手ヲ派シ患者住居及附近ノ消毒ヲ行フト同時ニ従業員日支人合計四三名ノ痘痘ヲ行ハシメタリ。

二、十一月二十四日南支那支部南水廠小川毅次郎(三二才)ハ十一月九日發病上海福民病院ニ入院中ノ所二十四日ニ至リパツヂツス(AカBカハ不明)ト決定セル旨、午後四時半渡邊兵站南支那支部ヨリ電話アリ消毒方ヲ依頼サレタリ。依テ末松醫員、原島、古谷、諏訪助手、青柳運轉手ヲ急派シ患者及其ノ附近ノ消毒ヲ行ハシメタリ。

第四 上海ニ於ケル種痘ノ實施

寒冷期ニ入ルト共ニ中支那各地ニ於テハ天然痘流行ニ對スル防疫準備ヲ完備シ置カザルベカラズ。上海南市ニ於テハ殊ニ最近難民ノ群集居住スルモノ多キ實情ニ鑑ミ本部ニ於テハ取敢ヘズ年少者ノ痘痘ヲ實施セント欲シ、南市ニ於ケル小學校五校ノ兒童並ニ職員ノ痘痘ヲ次ノ日程ニヨリテ施行シタリ。

一、南市小學校職員及兒童ノ痘痘

十一月二日	南市第一小學校	三一二名
十一月四日	第二小學校	二八一一名
十一月五日	第三小學校	二二二名
十一月八日	第四小學校	二六九名
十一月九日	第五小學校	
十一月十日	第一小學校前回未了者	二四名
	第二小學校	一四名
	第三小學校	二七名
十一月十二日	第四小學校	七名

十一月十三日

南市第五小學校前回未了者四五名

右ノ中善感者検査ノ結果善感者七十七名アリタリ、其ノ學校別左ノ如シ

學校名	種痘日	検査日	検査人員	善感者數			
				四類	三類	二類	一類
第一小學校	十一月二日	十一月十日	三二二	二	六	五	一六
第二小學校	十一月四日	十一月十日	二八一	六	四	九	二二
第三小學校	十一月五日	十一月十二日	二二二	五	五	六	一七
第四小學校	十一月八日	十一月十二日	二六九	三	二	七	一三
第五小學校	十一月九日	十一月十三日	二六六	四	三	一	八
計				二六	二一	三二	一〇三

二、上海虹口ニ於ケル一般住民ノ痘痘

十一月八日開催セラレタル上海臨時防疫委員會議ノ決議ニ依リ十一月十一日ヨリ二日間虹口地區ニ於ケル一般住民ノ痘痘ヲ行フコト、ナリ本部ハ吳淞路廣場ニ於ケル種痘場擔當ノ依頼ヲ受ケタリ。種痘施行時間ハ毎日午後三時ヨリ六時迄トセラル。

依テ本部ニ於テハ西、中島（根井交替）末松三醫員、看護婦三名ヲ兼シ之カ實施ニ當ラシメタリ。十一、十二ノ兩日ノ種痘者數左ノ如シ。

十一月十一日種痘 日本人 六六〇 支那人 六八七
計 一、三四七

十一月十二日種痘 日本人 六二五 支那人 六五〇 外國人 六
計 一、二八一

總計 二、六二八

三、南市一般住民ノ種痘

十一月二十六日防疫班長ハ南市憲兵分隊第二隊長ヲ訪問、南市住民ニ對シ種痘ヲ施行致シ度キニツキ援助ヲ仰ギ度キ旨懇請シ左ノ計劃ニヨリテ實施スルコトニ決定セリ。

期日 十一月二十八、九、三〇ノ三日間
每日午前十時ヨリ午後四時迄

場所 南市蓬萊橋（第一班）南碼頭（第二班）片山橋（第三班）ノ三個所

班員 各班醫員二名、助手二名、通譯一名、警備憲兵二名宛

右ノ中通譯一名ハ憲兵分隊ヨリ一名ハ南市特務機關ヨリ選ノ一各ハ本部ヨリ同行スルコトニ決定セリ。

十一月二十八日午前九時防疫班長引卒ノ下ニ第一班西醫員、梅美藥劑員、梅澤兩助手、第二班吉田、末松兩醫員、古谷、中務兩助手、

第三班中島、根井兩醫員、原島助手、會助手兼通譯ノ十二名ノ班員夫々各部署ニ向ツテ出動、三十日迄ニ左記ノ人數ノ種痘ヲ行ヒタリ。

十一月廿八日 第一班 蓬萊橋 九七五

第二班 南碼頭 二、七五〇

第三班 片山橋 七二〇

計四、四四三

十一月廿九日 第三班 片山橋 五五〇

本日ノ種痘ハ豫定ノ痘苗未着ノ爲片山橋一ヶ所ニ止メタリ。

十一月三十日 第一班 蓬萊橋 一、三三三

第二班 南碼頭 一、五〇〇
計 二、八八三

第三班片山橋ニ於テハ既ニ前二回ノ種痘ニテ大体同
所通行人及橋下夕リ一ト夕通過船居住者ヲ濟セタルヲ
以テ第二班ニ合併セシメタリ。

合計 一七、八七八

以上本部ガ十一月中ニ上海市内及其ノ近郊ニ於テ施行シタル種痘數總計
一一、九七三名。之ニ後記南翔、嘉定方面ノ種痘數六、九二九名ヲ加算
スレバ累計一八、九〇二名トナル

第五 豫防接種材料配布數量

本部ニ於テ十一月中ニ配布セル豫防接種材料ハ痘苗ノミナリ其ノ數量及
配布先次ノ如シ

十一月廿七日 防疫部南京支部 二〇、〇〇〇人分
十一月一日 同仁會第二診療班 二五〇人分
十一月七日 防疫部南京支部 一〇、〇〇〇人分
十一月九日 田中友部隊 六五〇人分

十一月十一日 田中友部隊 二五〇人分
十一月十九日 杭州特務機關 七、〇〇〇人分
十一月廿三日 嘉定特務班 二、〇〇〇人分
十一月三十日 同仁會第二診療班 八七五人分
計 四一、〇二五人分

第六 移動防疫

十一月十八日軍特務部ヨリ嘉定、南翔方面ニ天然痘流行ノ兆アリトノ報ニ
接シ班長ハ午後四時上海特務機關ニ趣キテ嘉定特務班員ト會談、狀況ヲ聽
取シ、十一月十九日防疫種痘班ヲ派遣スルコトニ決定シテ辭去セリ
十一月十九日右防疫種痘班トシテ左ノ通り醫員二名、藥劑員一名、技術員
一名、計四名ヲ派遣之ガ防疫ニ當ラシメタリ

醫員 吉見 幸一
船官 宮 光
藥劑員 瀧川 幸吉
技術員 榎本 清助

右ノ防疫作業狀況次ノ如シ。

十一月十九日午後二時上海特務機關ニ於テ專定特務班ノ自動車ニ便乗、午後四時專定ニ到着、古川特務班長ノ案内ニテ當地ノ各衛生設備ヲ視察シ痘痘接種ニ關シテ種々打合セヲ行ヒタリ

十一月二十日ヨリ二十四日迄毎日午前九時ヨリ午後四時迄痘痘ヲ行ヒタリ。十一月二十日ハ縣警務衛生所ニ於テ二十一日ハ專定西門外第一警察所（警察分局）ニ於テ二十二日モ同上、二十三日ハ上海防疫本部トノ連絡宜シカラズシテ痘苗追加分ニ、〇〇〇人分ガ午後ニ至テ漸ク到着セル爲痘痘實施不能、二十四日ハ南翔郷公所ニ於テ夫々次ノ人員ノ痘痘ヲ施行セリ

十一月二十日	男 五五二	計 六八五
	女 一三三	
十一月廿一日	男 二、五一八	計 三、一四一（内小學生七三二）
	女 六二三	
十一月廿二日	男 二、六七七	計 二、四三三（内小學生一八六名）
	女 七五六	

十一月廿四日	男 五九四	計 六七〇
	女 七六	

累計 六、九二九名

斯クシテ二十四日同地方ノ痘痘ヲ打切り午後四時上海ニ歸着セリ

初メ同地方ニ天然痘患者發生セリトノ風聞專ラナリシモ調査ノ結果患者發生ノ模様ナク又其ノ後モ天然痘患者發生ノ兆ナシ

尙當班出張中ハ專定班管轄下ノ各醫務、衛生方面ノ係員ニ對シテ種々防疫ニ關スル指導ヲ行ヒタリ。

第七 部員健康状態

夏期ノ酷熱時ニ於ケル激務ノ疲勞ノ恢復ノ暇ナキ爲カ十一月ノ寒冷期ニ入りテ部員ノ健康ヲ害スル者相踵テ數名ヲ出セルハ甚ダ遺憾トスル所ナルモノ一名ノ犠牲者ナキハ不幸中ノ幸ト謂フベシ

- 十一月一日 小山鏡四郎（大工）マダリマニテ時疫醫院ニ入院、
- 同 十二月 全治退院
- 十一月 四日 淺井豐丸助手ハ腸チフスニテ矢吹政治郎專務員ハバチチフス（A）ニテ時疫醫院ニ隔離ス

注意

十一月 八日 小林義一技衛員赤痢ニテ同夕時疫醫院ニ收容、
同 二十日 全治退院

十一月十七日 中村桃吉藥劑員腸チフスニテ時疫醫院ニ隔離中。
其ノ他ハ異狀ナシ。

以上部員ノ臨床的所見次ノ如シ
一、小山鐵四郎 男、三十八才、職業 大工

住 所 同仁會防疫本部

發 病 昭和十三年十月二十九日

入 院 昭和十三年十一月一日午後二時

診 斷 マラリア

既往症 著患ナシ 誘因 不明、傳染経路 不明、
主 訴 發熱

入院時所見 体格中等度、營養不良、体温三十六度二分、呼吸十八、
脈搏七十二脈性整緊張良、皮膚普通、意識明瞭、顔面貧血、舌苔ア
リ、咽頭軽度ノ發赤アリ、呼吸器心臓變化ナシ、腹部平坦、肝二横
指徑觸ル脾觸レズ、反射機普通、筋痛ナシ、食慾普通、便通一日一行

經 過 入院前マラリア發作（發熱最高三十九度惡感、戰慄、頭痛）三
回アリタルト言フ
入院第二日マラリア發作（發熱三十九度八分）以後平熱ニ経過シ發
作ナシ

處 置 ナシ
投 藥 鹽規、シグレニン、健胃劑

細菌検査 入院時、マラリア原蟲（三日熱陽性）

轉 歸 昭和十三年十一月十二日午前十時全治退院

二、淺井豐丸 男 二十六才 職業 防疫技術助手

住 所 同仁會防疫本部

發 病 昭和十三年十月十七日

入 院 昭和十三年十一月四日午前十時

診 斷 腸チフス

豫防注射 十月十七日チフス豫防注射施行

既往症 生來健康ニシテ著患ヲ知ラズ、誘因 不明、

傳染経路 無錫移動防疫中(自九月廿四日至十月六日)

主訴 全身倦怠、發熱

入院時所見 体格大、榮養良、体温三十七度二分、呼吸二十四、脈搏九十六、脈性整充實緊張良、皮膚發汗少々、口唇少シク乾燥、舌苔稍アレ共耳聾ナシ、顔面稍蒼白、眼髪ナシ、口唇少シク乾燥、舌苔稍アレ共濕、咽頭及扁桃腺少シク充血、呼吸器著變ナシ、心臓心音一般ニ充進、肺動脈第二音稍充進、腹部平坦柔軟、脾觸レズ、肝觸ル、盲腸部不快感アリ、反射機充進、筋痛ナシ、便通隔日、尿利普通、食慾普通、睡眠不良

経過 入院第二日 全身倦怠、咽頭痛アリ、扁桃腺軽度ニ腫脹充血著明舌禍苔中等度、口唇少シク乾燥ニ三ケ、肺動脈第二音充進、腹部雷鳴ナシ、肝少シ觸ル。

入院第三日 前日ノ如シ咳嗽多シ、胸部異常ナシ。

入院第四日 咳嗽減少

入院第六日 夜間腹痛ヲ訴フルモ異常ナシ

入院第七日 舌禍苔アリ第二肺動脈音稍充進脈搏整、腹部柔軟平坦

以後經過良好ニシテ特別ノ變化ナシ体温ハ入院後最高三十八度三分迄ヲ弛張セルモ漸次下降入院第六日ニシテ平熱ニ復シ以後全く發熱ナシ

處置 入院第九日迄毎日二〇%葡萄糖液二〇cc及ビオオパラゾトリン二〇cc靜脈注射

投薬 ビタミン劑及健胃劑 蛔蟲驅除ノ爲サントニン三回頓用

細菌検査 入院時 血中菌陽性(ET)

大便 1 1. ET 一六〇〇培陽性

十一月 七日 月夜便日検査 共ニ陰性

十一月 十六日

十一月 十八日

十一月 廿八日

十二月 一日

轉歸 昭和十三年十二月三日全治退院

三、矢吹政治郎 男 一十八才 職業 防務本部事務員

住 所 同仁會防務本部

發 病 昭和十三年十月三十一日

入 院 昭和十三年十一月四日午前十時

診 斷 パラチフスA

豫防注射 本年十月十四日及二十日チフス豫防注射二回旅行

既往症 四年前脚氣ニ罹患セル外著患ヲ知ラズ

誘 因 不明、傳染経路 不明、主訴 全身倦怠、

入院時所見 体格中、營養中、体温三十六度七分、呼吸二十二、脈搏七

十八、脈性緊張張良、皮膚熱感乾燥、口唇乾燥、意識明瞭、

耳變ナシ、顔面蒼白、眼變ナシ、呼吸器右肺上部呼吸音粗、心變、

心音一般ニ稍亢進、腹部平坦柔軟、肝脾共ニ觸レズ、盲腸部不快感アリ、

反射減弱、筋痛ナシ、便通尿利普通

經過 入院第二日 舌苔中等度、口唇乾燥ナシ、腹部平坦柔軟、肝脾

觸レズ、全身倦怠、臍部腹痛アリ、盲腸部變ナシ

第三日 下腹部稍膨滿感アリ、不眠

入院第四日 腹部稍膨滿感及左下腹部雷鳴アリ、下痢數回

第五日 腹部雷鳴

第七日 舌苔苦アリ、腹部平坦雷鳴アリ、

第十日 腹部膨滿感消失ス

体温ハ入院第十五日ニ至ル迄最高三十九度四分、弛張セルモ、

第十六日ヨリ覆蘇下熱、以後全ク發熱ナク順調ニ経過ス

處 置 入院第十八日迄毎日二〇%葡萄糖液二〇cc及5%オパールトリン

二、〇〇静脈注射

投 藥 健胃劑、ビタミン劑、睡眠劑、驅蟲劑

細菌検査 入院時 血中菌陰性 PA 八〇〇培養性、BT二〇〇培養性、

十一月十二日 血中菌陰性

十一月六日 檢便檢尿陰性

十二月一日

十二月三日

十二月六日 檢尿檢便陰性

轉 歸 昭和十三年十二月八日午前十時全治退院

四、小林鶴一 男 四十五才 職業 技師員

住所 同仁會防癘本部

發病 昭和十三年十月下旬

入院 昭和十三年十一月八日午後零時

診斷 疑似赤痢 既往症 生來健康ニシテ若慮ヲ知ラズ

誘因 不明、傳染經路 不明、主訴 下痢、

入院時所見 体格中、營養中、体温三十六度八分、呼吸二十、脈搏八十

二、脈性整正緊張良、意識明瞭、顔 普通、舌薄苔、呼吸器並ニ心

腹變化ナシ、腹部平坦ニシテ壓痛ナシ、字狀部稍抵抗アリ、盲腸

部並ニ字狀部ニ於テ音鳴著明、食慾睡眠共ニ良、口濡ナシ、便通

一日數行、便性軟粘血液共ニ少シク混在、尿量普通

經過 入院第二病日 綠色粘液便、血液少々、

第三〃 水瀉便、字狀部索條觸ル、

第五〃 粘稠便、粘、血少々

以後經過良好ニシテ泥狀便ヨリ漸次有形便ニ移行、粘血共ニ消
失、腹部雷鳴、抵抗又共ニ消失スルニ至ル

處置 入院中、鹽酸ニメチン一、〇〇皮下注射三回

投藥 下劑、整腸收斂劑、健胃劑

細菌検査 十一月十一日 陰性

十一月十七日 陰性

十一月二十日 陰性

轉歸 昭和十三年十一月二十日全治退院

五、中村桃吉 男 二十七才 職業 藥劑員

住所 同仁會防癘本部

發病 昭和十三年十一月十四日

入院 昭和十三年十一月十七日

診斷 腸チフス

既往症 三年前激烈ナル胃痛其ノ他著慮ナシ

誘因 不明 傳染經路 不明

發病時ノ狀況 十一月十五日午後八時頃ヨリ惡寒發熱、頭痛アリ

以後熱ハ稽留最高三十八度ヨリ三十九度ニ至ル

主訴 發熱

入院時所見 体格中、榮養中、体温三十八度七分、呼吸二十四、脈搏九十、脈性正整緊張良、皮膚變ナシ、口ゼオラナシ、意識明、口唇普通、舌薄苔、呼吸器心變ナシ、腹部稍膨滿壓痛雷鳴ナシ、脾肝共ニ觸シオズ筋痛ナシ、便通一日一回、尿量普通、睡眠食慾良

経過 第二病日 体温最高三十九度二分

脈搏緊張良一分時最高一〇八、腹部稍膨滿、第三病日即チ十一月十九日腹部膨滿悪心アリ、一晝夜來尿閉膀胱部膨滿、第二肺動脈音亢進、導尿ニヨリ六百cc排尿、脾肝觸ズ、体温三十九度前後ヲ稽留、意識稍濁濁膿腫時々有、第四病日前日ニ同シ、第五病日十二月廿二日ニ至リ臍語時々有、脈搏緊張良、腹部膨滿著明ニシテ抵抗有、水様便ニシテテネスムス様感アリ、体温依然トシテ三十九度ヨリ三十九度五分ノ間ヲ稽留ス。十一月二十三日体温最高三十九度六分ヨリ最底三十七度五分ニ下リレミツシヨシ有、然レ共腹部尙著明ニ膨滿シ雷鳴所々ニ存シ水様便依然タリ、排尿尙著ク困難ニシテ導尿ニヨラズンバ排尿不能ナリ、意識明ニシテ脈搏緊張良、十一月廿四日

廿五日、廿六日腹部膨滿次第ニ輕減、体温三十九度ヨリ三十七度迄上下ス、便通軟便ニ變シ、胸部變ナシ、十一月廿七日口ゼオラ散發肝脾觸レズ、自然排尿有リテ排尿困難除去サル、全身倦怠輕減、十一月廿九日最高体温三十七度六分 十一月卅日体温最高三十七度五分、全身症狀輕快、口ゼオラ消失、腹部膨滿殆ド消退、便性普通 二日ニ一回、舌苔薄少々存ス、自然排尿量一日千cc 以後經過良好ノ模様

處置 入院第一日ヨリ強心劑及ビタミン劑多量投與、リンドル及ピロチノン一日二回宛靜脈注射、其ノ他整腸健胃劑投藥

細菌検査 十一月二十日ヴィイタール三才培養強陽性 血中菌陽性(當日陽子フス決定届出済)

轉歸 現在入院中

豫防注射 本年十月十四日同十月廿日ノ二回ニ亘リチフス豫防注射ヲ爲セリ

六、藤瀬次郎一 男 三十八才 職業 事務員 住所所 同仁會防疫本部

發病 昭和十三年十一月二十四日

入院 昭和十三年十一月二十八日午後九時

診斷 感冒 既往症 著患ナシ

主訴 高熱、腰痛

入院時所見 体格中等度、栄養良、体温三十九度五分、呼吸二十三、脈搏百十、脈性整正緊張良、皮膚濕、四肢チカラナシ、意識明瞭、顔面紅潮、舌乾燥白色苔アリ、咽頭輕度ノ發赤アリ右扁桃腺稍肥大、呼吸器異常ナシ、心臟第二肺動脈音亢進、腹部平坦、肝脾觸レズ、膝蓋髓反射消失、筋痛著明、便通一日一回便性普通利尿變カシ、
經過 入院第二日 舌白苔、咽頭僅ニ發赤、右胸脊面下部ニ小水泡性羅音聽取僅ニ濁音抵抗アリ、吸氣時同局所ニ鈍痛アリ、時々輕度ノ咳嗽アリ、肝脾觸レズ、發熱三十九度五分
入院第三日 胸部鈍痛輕減、發熱三十八度一分
入院第四日 右胸脊面下部ニ乾性羅音聽取發熱ナシ、以後經過良好ナリ。發熱ナシ、
處置 葡萄糖液及パラコトリン注射、胸脊部濕布。

投藥 健胃劑、ビタミン劑

細菌検査 血中並ニ糞便チフス菌陰性

轉歸 昭和十三年十二月三日

意見 見

一、天然痘猖獗ノ兆アリ。之カ豫防トシテハ種痘ノ勵行ハ勿論ナルモ痘苗其ノモノニツキ豫防效果ノ確實ナルヲ期スルヲ要ス。然ラザレバ折角ノ努力モ徒勞ニ歸スベシ。故ニ既製痘苗ノ效果研究ニ關シテハ慎重ナルヲ要ス。

二、マラリヤハ中支ニ廣ク深浸スル疾患ナルガ如シ。之ニ關シテハ重ノ指示ニヨリ一般支那民衆ニ於ケル深浸度ヲ調査研究スル取針ナリ。
三、上海支部員ノ保健ニ關シテハ十一月ニ入り多數ノ患者ノ發生ヲ見タリ。殊ニ腸チフスヲ顯著トナス。之カ發生原因ヲ徹スルニ十月ニ支部員一濟ニチフスノ豫防再注射ヲ施シ又支部員ノ保健者檢索ヲ行ヒタル結果陰性ナル點ヨリシテ其ノ感染経路ハ不明ナリ。今後一層ノ注意ヲ要ス。



文化事務部

第一課ノ二

昭和十四年二月十四日

機密第九〇號

昭和十四年二月一日

在南京

總領事 堀

公



別紙添附

外務大臣 有田 八郎 殿

防疫本部業務報告送付ノ件

南京駐在中支同仁會防疫本部第七回業務報告一部御參考迄別添送付
ス御查收相成度

在南京日本總領事館

62

H-0255

0255



昭和十三年十二月

業務報告 〔第七回〕

中支同仁會防疫部南京支部
軍特務部防疫部南京診療所

H-0255

0255

一 編成

全員三十八名中津々見醫員外十五名ハ前月ニ引續キ難民疾病調査ノ爲メ特務部鎮江醫院ニ勤務シ小林支部長以下二十三名(中旬約一週間上海特殊診療班和田医員應援)ヲ以テ南京支部業務ニ就ケリ十二月十九日小林支部長ハ編成替要務ノ爲約ニ週間ノ予定ヲ以テ台湾ニ出張セリ

二 行動

支部ニ於テハ各地移動班ノ種痘並ニ駐屯部隊及一般民衆ノ「マラリア」原虫檢索ノ爲採血ニ主カヲ集注セリ

三 業務

イ コレラ予防注射 九一
ロ チブス予防注射 六
ハ 種痘 二二一五
ニ 菌檢索

A 入院患者 八一
B 診療班依託 一三九
ホ マラリア原虫檢索 七三三九
ヘ 特殊診療班患者取扱

入	院	院
一	一	一
〇	〇	〇
延	人	員
一	三	五
現	在	ナシ

十二月ニ於ケルコレラ予防注射ハ主トシテ上海方面旅行者ニシテ要求アル都度之ヲ実施スルニ止メリ種痘ハ上海方面ノ流行ニ鑑ミ前月

ノ市内小中學校児童生徒ノ実施ニ引續キ當月ハ市内督辦公署所屬各避難民收容所及城外上新河区ニ夫々班員出勤之ヲ実施セリ尚ホ種痘ト併行マラリア調査ヲ行ヘリ

市内一般民衆ノ種痘ニ就テハ南京督辦市政公署衛生局ヲ指導シテ必要ナル機材及痘苗ヲ補給シ各区診療所ニ於テ實施セシメリ其ノ實數十二月末日現在ニ於テ三五〇〇三ニ達セリ

右ノ如ク當支部ガ全然主動的地位ニ於テ業務ヲ遂行セズ官辦公署自体ニ於テ之ヲ實施セシメタルハ漸ク機能付ケラレツ、アル市衛生當局ノコノ種業務ノ訓練トシテ頗ル効果アルヲ信ズ 菌検査室ニ於ケル業務ハ入院患者少數ノ爲メサマデ繁忙ト云フヲ得ガリシモ別項ノ如ク移動防疫班ノ出張ニヨリマラリア原虫検査ノタメ各地駐屯軍隊及一般民衆ノ採血検査

數實ニハ千五百余件ニ達シタリ
 特種診療班ノ取扱入院患者内訳左ノ如シ
 一 入院退院患者病類別表

病類	入院	退院	現在	延數
赤痢	二	二	一	七
赤痢様疾患	六	六	一	七六
チブス	一	一	一	三〇
ダフテリア	一	一	一	三二
計	一〇	一〇	一	一三五

二 職業別

職業	患者數	百分率
官公吏	一	一〇
商業	二	二〇
工業	一	一〇
勞働者	二	二〇
無職	二	二〇
十五以下	一	一〇
其他	一	一〇
計	一〇	一〇〇

四 各地派遣移動班業務

(1) 蕪湖附近

十一月十一日 出祭
松島 尉 太郎

醫學員 草壁 龜雄
事務長 成瀨 進而
技術員 竹山 健志

軍ノ命令ニ依リ各地駐屯部隊並ニ一般民衆
ノマラリア調査ヲ目的トシ勝々一般民衆ニ
種痘ヲ実施セルモノナルガ草壁事務長ハ該
地部隊本部特務班帝國領事館等ノ業務連絡
ノ任務ヲ終ヘ四日南京ニ帰任セルガ松島医
員外ニ名ハ三日高邑部隊本部其ノ他駐屯部
隊ノ採血ヲ行ヒ四日太平鎮部隊五日蕪湖施
療所ニ於テ一般民衆ノ種痘並ニ採血ヲナシ
六日帝國領事館関係者民留民ノ種痘ヲ行ヒ
七日警戒兵十四名ト共ニ山口鎮着前哨線
近ク時ニハ小銃彈ノ飛來スル中ニ警備中兵

士ノ異動採血ニ從事シ八日更ニ三山鎮ニ於
テ採血ノ予定ナリシモ軍ノ連絡隊ガ途中ハ
路ヲ誤リ敵陣中ニ迷入り小機銃ノ掃射ヲ受
ケ彈丸ニ発動機銃ニ命中シ應戦セルモ及
バズ遂ニ軍需品其ノ他ニ石火ヲ以テ兵火ニ
鉄舟ヲ焼沈シテ辛クシテ三山鎮警備隊ニ到
着共ノ旨報告直チニ警備隊ノ出動アリトノ
情報アリ採血ヲ中止ス

九日引續キ三山鎮部隊ノ採血ヲ了レテ蕪湖
帰着十日高邑部隊區務室ニ於テ作業十一日帰任セリ

- | | |
|----------|-----|
| 高邑部隊採血人員 | 六 |
| 蕪湖部隊 | 一三五 |
| 太平部隊 | 一三七 |
| 山口鎮荻原部隊 | 一三七 |
| 三山鎮川島部隊 | 二〇九 |
| 蕪湖補助衛生兵 | 三四 |

計 一般民衆採血人員 一〇二二
 燕湖一般民衆 一三九五
 計 日本人居留民 一七九
 燕湖一般民衆種痘 一五七四
 計 日本人居留民 一八七七
 燕湖一般民衆種痘 一八七七
 計 日本人居留民 二七〇一

(四) 滁縣移動班
 安徽省滁縣ニ天然痘發生ノ報アリ軍特務部
 ノ命ニ依リ天然痘予防接種ノ爲十二月八日
 醫員 宮川 一多
 技術員 宮崎 三太郎
 ノ兩名ヲ該地ニ派遣六日間ノ業務ニ就カシ
 メリ其人接種數ハ三七〇〇名ニ達セリ

(三) 揚州地区移動班
 揚州駐屯小川部隊ハ十一月十一日未明仁
 和集ニ突入シ同地ヲ白領スル予定ニツキ防
 疫班ハ本部ニ同行シ仁和集ニ於テ一般人民
 ニ治療シ日本軍ハ仁和集ニ膠着シテ爾後ノ
 軍事行動ヲ取ラザル如ク偽裝ヲナスベシ而
 ル間ニ軍ハ十二月十四日未明敵匪ノ牙城天
 長ヲ襲撃白領セントス防疫班ハ軍事行動終
 アラウ俟チテ住民ニ宣撫治療スベシ尚水軍ノ
 マラリア檢索ノタメ採血スベシ
 揚州歸還後ハ同地一般住民ノ種痘並ニマラ
 リア檢索ノ爲メ採血スベシ
 定テ以テ必要機材ト共ニ

△ 醫員 津々見 仙甫
 △ 調劑員 小関 信
 △ 弓削 五郎



技術員 椿 國 竹 次
通 訳 殷 國 錚

十二月九日南京ヲ出發セリ

(命令書写)

南特令第一〇七号

出張命令書

醫師奏任囑託 津々見 仙甫

全 技術員判任囑託 弓 削 五郎

全 小 関 竹 信 次

全 椿 國 錚

全 備 人 殷 國 錚

右ハマラリヤ原虫保有調査並醫療宣撫ノ爲
十二月九日出發貳週間ノ豫定ヲ以テ揚州ニ
出張ヲ命ス

昭和十三年十二月九日

南京特務機關長 大 西 一

行動

十二月十日 鎮江發揚州駐屯奈良隊第三内務班
ニ宿營

全 十日 全上宿營
揚州方家巷ニ到着附近住民ノ診

全 十一日 療ニ從事ス患者十五名全時ニマラ
リア採血ヲ行フ

全 十二日 風雨強ク患者數少シ旧患五名

全 十三日 診療患者十五名方家巷及甘泉山方
面住民ハ吾等ノ施療ヲ非常ニ喜ビ

全 十四日 居ルトノ情報アリ

全 十五日 診療患者十七名午後方家巷部落ニ
テマラリア採血ヲ行フ以上ニテマ

全 十六日 朝方家巷出發仁知集宿泊

全 十七日 仁知集出發天長宿營

H-0255

0258

全 十八日 抗日ノ本據地ナレバ住民ノ復帰ス

ル者甚ダ少ク又患者ノ來ル者ナシ
午後暴風雨ノ中ヲ天長守備隊奈良
隊ノ將士八三名ノ採血ヲ行フ風雨
ノ中ヲ各處ノ勤務ニ從事スル兵士
ヲ採血シ廻レリ

全 十九日 患者二名

全 二十日 天長出發仁和集宿泊守備兵四五名
ノ採血ヲ行フ

全 二十一日 仁和集發大儀宿泊

全 二十二日 大儀集發揚州宿泊

右行動ハ区域ガ所謂討匪ノ戰地帯ニシテ
診療ヲ受ケントスル住民モ殆ンド避難シテ
リシ關係上診療ノ効果ハ予期以上擧ゲ得ザ
酸ヲ嘗メ或ハ暴風雨中泥濘膝ヲ浸スル悪路

ノ行軍ニ或ハ寒氣ト飢餓ト闘ヒツ、十二月
二十四日帰任セリ 揚州小川部隊長ヨリ左
記感謝電ヲ接受セリ

防疫班当地派遣員ハ非常ノ艱苦ニ堪エ多
大ノ成果ヲ納メ本二十一日出發帰還セリ
茲ニ御厚意ヲ深謝スルト共ニ來年一月ニ
月ノ候函度派遣ヲ切望ス

(二) 句容溧水移動班
駐屯部隊及一般民衆ノマラリア調査並ニ種
痘ノタメ

- 全 醫員 宮川 一多
- 全 (上海) 和田 秀雄
- 全 松島 尉太郎
- 技術員 竹山 健志

ヲ十二月十四日句容溧水方面ニ派遣セリ
行動

十四日句容駐屯各部隊ノ採血十五日句容縣立病院内ニ於テ小學児童ヲ合ム一般民衆ノ種痘並ニマラリア調査ノ採血脾臟検査十六日今上十七日警戒兵ト共ニトラツクニ乗ジ約七里ノ天王寺ニ到着部隊ノ採血後更ニ約七里ノ溧水ニ向ヒ溧水駐屯部隊ノ採血後營内ニ宿泊十八日午前部隊ノ採血ラ了シ午後管内医務室ニ於テ一般民衆ノマラリア調査並ニ種痘セリ十九日歸任右行動ニ依ル業績ハ

部隊關係採血

句容部隊 二八一

天王寺部隊 一一〇

溧水部隊 三一二

計 七〇三

一般民衆採血

句容 一〇四五

溧水 一五〇

計 一九五

一般民衆種痘

句容 一三七四

溧水 二一六

計 一五九〇

① 金壇移動班

駐屯部隊及一般民衆マラリア調査並ニ民衆種痘ノ夕メ十二月二十二日金壇ニ出發

醫員 松島尉太郎

公 官 川 一 多

技術員 竹山健志

鎮江ニ業務連絡ノ為メ途中下車一泊シ二十三日金壇到着二十四日金壇警備隊医務室ニ於テ駐屯部隊ノ採血二十五日軍特務班施療

所（純達醫院）ニ於テ一般民衆ノマシリア
 調査並ニ種痘ニ十六日全上二十七日全上ニ
 十八日歸任セリ
 金壇部隊採血 四八三
 一般民衆採血 五二〇
 全上種痘 一七七

（揚州移動班）
 一般民衆マシリア調査ノタメ

医員 弓 副 五 郎
 技術員 椿 友 次

ハ十二月二十六日揚州ニ出発三日間ニ至リ
 日語学校模範小學校城東小學校縣立病院城
 北小學校縣公署城西小學校監獄等一〇三五
 名ノマシリア原蟲調査ノ採血ヲナシ二十八
 日歸任セリ
 以上各地移動班ノ寧日ナキ出勤ニ依リ

モ南京ヲ中心トスルマシリアノ分布状態ハ簡
 明セラルルモノト確信ス

五種痘分與

十二月八日	特務機關金壇班	二千五分
十二月十二日	督弁公署衛生局	五千五分
十二月十七日	全上	五千五分

六鎮江難民疾病調査（鎮江醫院）

一 一般診療状況ハ別表ノ如ク実数七四八九ハ
 一日平均三一二ニシテ枚葉数実ニ九四九
 〇ニ達セリ
 其ノ内容ニ就テ別記病類別統計ヲ一瞥スル
 二 依然トシテ眼瞼疾患ハ最大ヲ白メ全数ノ
 一七%ニ相当ス次ニ化膿性疾患ノ一四%皮
 膚病疾患ノ一二%梅毒疾患ノ九%等々ナリ
 外科ニ於テハ軟部化膿性疾患ハ外來患者ノ
 五〇%ヲ示シ特ニ下腿ニ潰瘍ヲ作ルモノ多
 クコト前月ニ同シ次ニ耳疾中ノ多ハ急性中
 耳炎ナリ
 皮膚科ニテハ疥癬大部分ヲ白メ濕疹之ニ次ガ
 眼科ニ於テハトヲホトム驚異的數字ヲ発見
 スバシ
 内科マラリアハ依然最高ヲ白メ当月中ニ於
 テハ既ニ十月中旬以來上海ニ流行ヲ見ツ、
 アリ各地ニ警戒セラレタル天然痘一が終ニ
 軍關係ニ發生当医院ニ委託収容セリ
 二 種痘数ニニ七六七
 業務開始以來累計 三七、一〇三
 三 菌検査
 マラリア原虫検査 二七五〇
 梅毒血清反應 九一
 腸チフス保菌調査 一三〇 (常州井上部隊)
 淋菌調査 四六
 其他 五三
 以上

中支同仁會防疫部
 南京支部長 小林 義雄

外來患者職業別調査表

昭和十三年
鎮江醫院

備考	百分率	計	眼科	皮膚科	内科	外科	科別職業別
	三六	六四	八	二三	一五	一八	官公吏
	六二	一一	二四	二〇	三九	二八	農業
	一六三	二九	六七	七七	六六	八一	商業
	一八九	二九	四七	七一	五一	五〇	工業
	〇三	五	二	〇	三	〇	魚業
	一〇	一八	二	七	七	二	労働者
	三〇五	五四三	一五三	一〇二	一六五	一二三	無職
	二二七	三八七	四〇	一四四	八八	一三五	以下
主トシテ 単入軍 屬ヲ含ム	八三	一四七	一三	七	三	二五	其他
	一〇	一七八五	三三五六	三三三	四六六	四四二	計

(同前)

患者診療實際數調
内科 一三八四
外科 二〇八八

眼科 一八四八
皮膚科 二一六九
計 七四八九

一日平均
註入數ハ新旧両患者ヲ含ム



外来患者病類別表(十月中旬) 鎮江醫院

病別	傳染性疾患												新患	計
	コ レ ラ	チ フ ス	天 花 熱	チ ン キ ヤ	傷 寒	マ ラ リ	破 傷	流 感	登 革 熱	肺 結 核	助 肺 炎	其 他 肺 炎		
新患														
計														
新患														
計														
新患														
計														
新患														
計														
新患														
計														
新患														
計														
新患														
計														
新患														
計														
新患														
計														
新患														
計														
新患														
計														
新患														
計														
新患														
計														
新患														
計														
新患														
計														
新患														
計														
新患														
計														
新患														
計														
新患														
計														
新患														
計														
新患														
計														
新患														
計														
新患														
計														
新患														
計														
新患														
計														
新患														
計														
新患														
計														
新患														
計														
新患														
計														
新患														
計														
新患														
計														
新患														
計														
新患														
計														
新患														
計														
新患														
計														
新患														
計														
新患														
計														
新患														
計														
新患														
計														
新患														
計														
新患														
計														
新患														
計														
新患														
計														
新患														
計														
新患														
計														
新患														
計														
新患														
計														
新患														
計														
新患														
計														
新患														
計														
新患														
計														
新患														
計														
新患														
計														
新患														
計														
新患														
計														
新患														
計														
新患														
計														
新患														
計														
新患														
計														
新患														
計														
新患														
計														
新患														
計														
新患														
計														
新患														
計														
新患														
計														
新患														
計														
新患														
計														
新患														
計														
新患														
計														
新患														
計														
新患														
計														
新患														
計														
新患														
計														
新患														
計														
新患														
計														
新患														
計														
新患														
計														
新患														
計														
新患														
計														
新患														
計														
新患														
計														
新患														
計														
新患			</											



文化

文化事業部

第一課

昭和四年一月九日

接受

機密第六六七號

昭和十三年十二月二十七日

在南京

總領事 堀

公



別紙添附

外務大臣 有田 八郎 殿

中支防疫班南京支部業務報告(第六回)

送付ノ件

中支同仁會防疫部南京支部作製ニ係ル本件報告書何等御參考迄別添一部送付ス御査閱相成度

在南京日本總領事館



FR7
62

H-0255

0255



昭和十三年十一月

業務報告 (第六回)

中支同仁會防疫部南京支部
軍特務部南京防疫部
軍特務部防疫部南京診療所

H-0255

0255

十一月業務月報

一 編成

全員三十八名中津々見医員外十五名ヲ鎮江ニ
送り支部長以下二十三名ヲ以テ南京支部業務
ニ就ケリ

二 コレヲ豫防注射

前月中旬各區公所ノ出張注射ノ打切り後主ト
シテ上海方面ニ旅行スルモノノ便宜ノ爲班内
ニ於テ特ニ要求アルモノ一三四名ニ對シテ注
射セリ

三 種痘

十一月上旬上海ニ天然痘發生セリトノ警報ニ

接シ種痘ニ必要ナル機械ノ整備ヲ忙グト同時
ニ上海ニ於ケル天然痘ガ主トシテ日本人ニ感
染ノ傾向アルヲ察知シ先ツ十一月十一日軍特
務部ノ命ニ依リ本部職員並ニ使役支那人共十
名十三日南京特務機關員三九名ニ對シテ種痘
ヲ實施セリ尚帝國總領事館並ニ居留民團ト
協議ノ結果十四十五ノ兩日領事館職員家族及
一般居留民ニ對シテ種痘ヲ實施セリ引續キ
南京督辦公署ト緊密ナル連絡ノ下ニ十二月一
以降ノ種痘計畫ニ付キ協議ヲナスト同時ニ
先ツ二十一日公署職員ノ種痘ヲ手初メトシテ
二十三日以降南京市内市立小學校二十二校ノ
兒童ニ對シ各校ニ出張ノ上種痘ヲ實施セリ
尚特ニ今回上海ニ於ケル天然痘ノ感染ガ日本
人方面ニ多キニ鑑ミ特ニ右小學校兒童ノ中

第一第二小學校三百余名ノ種痘ニ當リテハ、大阪医大微生物研究所製痘苗及上海製痘苗ヲ併用シテソノ發痘力ヲ比較セリ
 十一月中ニ於ケル種痘者數七八二八名（内日本一五二三名）ニ達セリ

四 菌檢索

菌檢索數 二〇二 水質檢査 二五件
 マラリヤ原虫檢索 二六五七
 本月中料亭妻鶴ノ藝妓一名合灣青果會社炭張所店員一名赤痢患者發生ノ爲總領事館ノ委囑ニ依リ前者ニ於テ六四後者ニ於テ一〇ノ保菌調査ヲナセリ 他ハ收容患者ニ對スル腸チフスパラA日型赤痢菌ノ檢索及山本信部隊患者ノ赤痢アメーバノ檢索ナリ

其ノ他市内第一二三四五区各井戸水ニ就キ一日數回一定時間ノ間隔ヲ以テ水質檢査並ニ井水消毒藥ノ効力檢査ヲ實施セリ
 前月ニ引續キ岩松部隊ノ委囑ニ依リ山崎部隊細谷部隊ノマラリヤ原虫保有調査ヲナスト同時ニ第一診療班新患者並ニ市内各中小學校生徒児童田中友部隊南京農場員等二六五七件ノマラリヤ原虫檢索ヲ實施セリ

五 特殊診療班患者收容數

入院 一六名（内日本人九名）
 退院 九名（内日本人七名）
 延人負 二〇〇名



病名	赤痢	赤痢様疾患	チフス	計
入院	八名	七名	一名	一六名
退院	六名	三名	一名	九名
現在	二名	四名	一名	七名

職業	官公吏	商業	工業	労働者	無職	主才等	其他	計
百分率	二	五	一	三	一	一	四	一六
	一、二五〇	三、三三五	六、二五	一、八七五	六、二五	一、二五〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇

六鎮江難民疾病調査班業務
 (イ) 編成 前月 = 同シ
 (ロ) 業務 診療患者實數 一七一人
 (ハ) 診療日十三日 平均約一三二名

種痘 七五三九件
 マラリヤ原虫検査 一四三三六件
 駐屯部隊寄生虫検査 九七五件
 梅毒血清反應検査 一三〇〇件
 菌検査 二七件
 家屋消毒 四件
 鎮江難民疾病調査班ハ先月中旬以來特務部鎮
 江班及丹徒縣當局ノ協力ヲ得テ着々設營シテ
 リシガ工竣リ特務部鎮江醫院ノ名ノ下ニ十五
 日正式開院式ヲ舉行十六日以來内科小兒科外
 科皮膚科泌尿器科眼科ノ各科ヲ以テ一般ノ施
 療診療ヲ開始セリ(別項第一表)
 外來患者ノ開始状況ヲ一瞥スルニ
 内科小兒科ニ於テハ喘息氣管支炎等呼吸器

系統ノ疾患最多數ヲ占ム、中ニ結核性ト疑ハ
 ルルモノ相當多シ、次ニ位スルモノハ、マラ
 リヤ症ニシテ現在熱發等ノマラリヤ症狀ヲ
 訴ヘザルモ長年ノ原虫保有ニヨル脾腫消
 器障害神經症狀等ヲ主訴トシテ來リ採血檢
 査ニヨリ診斷ヲ確定シ得ル如キモノ、相當數
 ヲ占ム、脚氣ハ目下ノ處多クラズ、其他原
 因不明ノ全身營養障害ヲ來シ居ルモノモ亦
 尠カラズ

外科 最モ多キハ下腿潰瘍ニシテ、之ニ次グハ
 膿瘍及一般外傷ナリ

皮膚科 泌尿器科 最モ多キハ疥癬ニシテ約半
 數ヲ占ム、小兒ノ濕疹及膿痂疹モ多シ

眼科 花柳病殊ニ淋病相當數ヲ占ム、而モ大多
 トラホトム断然最多數ヲ占ム、而モ大多

數ハバシ又ス眼瞼内瞼睫毛亂生等ヲ合併ス
 次ニ翼狀贅片多ク何レモ觀血療法ヲ要スル
 モノナリ、急性結膜炎ニ相當數アリ
 又ヴイタミン缺乏ニヨル角膜軟化症五名ヲ
 見タリ

(第一表) 患者日計 別紙参照
 (第二表) 病類別統計 別紙参照

六、其他
 當月ニ於ケル業務ハ鎮江醫院診療天然痘ノ發
 生ニ伴フ種痘及一般マラリヤ原虫保有率調査
 ニ重点ヲ置ケリ、特ニ鎮江ニ於テハ一般民衆
 ノ交通ニ對シ種痘證攜帶ヲ絕對條件トセル爲
 ノノ數字ノ示ス如ク一万四千ヲ突破シ尙木繼
 續實施中ナリ、南京市内ニ於テハ未ダシノ感



ヲ免レズ
一方支那民衆及駐屯部隊ノマラリヤ原虫保有
調査ハ十二月ヲ以テ大体終了ノ豫定ナリ
以上

中支同仁會防疫部南京支部長

小林 義雄

第一表

患症日計表

昭和十三年十一月分

鎮江医院

計	三〇	二九	二八	二七	二六	二五	二四	二三	二二	二一	二〇	一九	一八	一七	一六	一五	日計
四二〇	六二	三三	六六		四八	四二	三七	三三	二〇	三二		二三	一五	六	三		内科小児科
四六六	六九	六三	六七		五一	四七	三九	二七	二三			二〇	九	七	五		外科
三六五	六一	七〇	五八		三九	四二	二七	二六	二一	三		九	八		一		眼科
四四七	六八	五五	四八		三八	五二	四六	三三	三四	一六		二三	二〇	一四			泌尿器科
一七一八	二六〇	二二一	二三九		一九六	一八三	一四九	一三一	一〇二	七四		七五	五二	二七	九		計

第二表

病類別統計表

十一月分

病名	(一) 全身病及傳染病										計	
	コレラ	赤痢	腸チフス	バチチフス	痘疹	猩紅熱	チフス熱	流行性脳脊髄膜炎	麻疹	流行性感冒		その他
外科												
内科												
小児科												
皮膚科												
泌尿科												
眼科												
合計												七四二六
備考												

文化
14.8.29
事務課

文化事業部

第一課ノ二

14.2.20
後收

昭和十四年二月十四日

臺灣總督府警務局衛生課長 加藤 重 喜



外務省對支文化事業部長殿

警衛親第八ニ號

南京防疫應援員ニ關スル件

昨年六月中支南京防疫應援員トシテ當府ヨリ派遣ノ小林義雄外三十名ニ對シテハ應援期間長期ニ及ヒタルニ不拘其ノ間種々御指導並ニ御高配ニ預リ申候段辱ナク奉深謝候御蔭ヲ以テ去ル六日小林班長外二十七名無事歸府仕候條御諒承相成度
右御禮旁及通報候也

臺灣總督府

14.2.22



文化
14.8.29
事務課

機密第六八二號

昭和十四年八月十五日

在南京

總領事 堀

公 一



別紙添附

課書文
14.8.23

外務大臣 有田 八郎 殿

同仁會南京診療班業務報告進達ノ件

本件七月分一部何等御參考迄別添進達ス御査閱相成度シ

在南京日本總領事館

14.8.29

62

H-0255

昭和十四年七月(自一日至一日)同仁會診療班患者表

生 寄 及													病 類												
病名	番	號	外來	入	患	新	外來	入	患	計	治	轉	死	亡	事	故	後	遺	治	療	日	數			
																							男	女	男
鞭蟲病	四五																								
肺囊腫	四四																								
肺炎	四三																								
日本住血蟲病	四二																								
蜜片蟲病	四一																								
肝臟チストマ	四〇																								
肝臟チストマ	三九																								
條蟲病	三八																								
網蟲病	三七																								
十二指腸蟲病	三六																								
黃熱	三五																								
テング熱	三四																								
波狀熱	三三																								
再歸熱	三二																								
恙蟲病	三一																								
カラザール	三〇																								
マラリア	二九																								
黄疽血症スヒロヘータ病	二八																								
鼠咬症	二七																								
狂犬病	二六																								
鼻疽	二五																								
炭疽	二四																								
破傷風	二三																								
膿毒症敗血症	二二																								
丹毒	二一																								
流行性耳下腺炎	二〇																								
百日咳	一九																								
急性骨髄質角膜炎及急性膿膜炎	一八																								
流行性感胃	一七																								
流行性又ハ嗜眠性腦膜炎	一六																								
流行性腦脊髄膜炎	一五																								
麻疹	一四																								
水痘	一三																								
痘疹	一二																								
チフテリア	一一																								
猩紅熱	一〇																								
アメーバ性赤痢	〇九																								
疫痢	〇八																								
細菌性赤痢	〇七																								
發疹性赤痢	〇六																								
B型パラチフス	〇五																								
A型パラチフス	〇四																								
腸チフス	〇三																								
ペスト	〇二																								
コレラ	〇一																								

提出班

H-0255

新 患 者 内 詳				計	女	男	別性 年齢
計	女	男	別性 別職				
二三四	七七	一四七	官公	四〇	二二	一九	未 満 一 歳
			吏	三二七	二九〇	一六	一 一 〇 二 一 二
二九	六三	五六	農	三三六	一七六	一六〇	三 三 〇 二 一 三
六八五	二四九	四三六	業商	三〇〇	二〇〇	一〇〇	三 一 一 三 〇 三
一八三	五五	一二八	業工	三〇	七三	一三	三 一 四 〇 四 一 五 〇
二六三	八八	一七五	業勞	二四六	二〇	三	五 一 六 〇 六 一 七 〇 七 一 八 〇 八 〇
三〇六	三三五	一七一	無職	一	五	五	七 一 八 〇 八 〇 以 上
一九八〇	八六七	一一一三	計	一九八〇	八六七	一一一三	計

H-0255

0282

秘

昭和十四年七月分

業務報告〔第十六回〕

同仁會南京診療班

H-0255

0203

第二表
各月ニ於ケル患者比較數

月 別	診療日數	患者實數	患者延數
13年 5月	28	1863	4617
6月	30	3276	9888
7月	26	5510	13741
8月	27	5880	16920
9月	26	2683	10369
10月	26	2802	10941
11月	26	2865	11510
12月	25	1951	8186
14年 1月	25	2220	8963
2月	23	1858	7772
3月	25	2559	11261
4月	23	2714	10845
5月	26	3128	10602
6月	24	1873	7108
7月	26	1917	7468
合計	336	43109	152191

第一表
七月患者數

診療期間	診療日數	患者實數	患者延數
自一日至十日	8	596	2252
自十一日至二十日	9	617	2353
自二十一日至三十一日	9	704	2863
合計	26	1917	(92+1253) 7468

(二) 診療状況
七月ニ於ケル外來患者數ヲ表示スルハ第一表ノ如シ。
若キ期間内定任セシメタリ。耳鼻科ハ高橋送員が担当シテ代

(一) 同仁會南京診療班行動ノ概要

本班ハ從來通り南京中華路ニ於テ一般外來診療
並ニ入院治療ヲ行ヒル外七月十七日以降同仁會
防疫處ニ依リテ南京秣陵村隔離病舎ニ於テ傳
染病患者ノ診療ニ當リコトナレリ。
七月十八日 高班長代理カ本班ヲ代表シ中支那救護
軍軍醫會分團南京教育班主催ノ研究會ニ於テ
六月十日發生セル中毒患者ノ臨牀的觀察ト題シ
維新政府梁鴻志行政院長外專人四名、毒酒中毒患
者ノ経過ニ就テ發表シタリ。
七月十九日ヨリ今日ニ至ル日ニ至リ三日間 南京特別
市政府主催發給傷病令令後援トシテ南條セルレタル
南京衛生展覽會ニ對シテ本班可及的ニ出席シタリ。
七月二十一日 本班々員全体 南京市反英大會ニ出
席シタリ。

(二) 同仁會南京診療班ノ業務概要

本月業務方針ハ一般支那民衆ノ宣撫診療並ニ
ニ傳染病豫防治療ニ重キヲ置キ且モ高岡兼
遊行ノタメニ南京へ來ルニ居留民ニ對シテ特ニ診療ノ便宜
ヲ興ヘツツアリ。
(一) 人員編成ニ於ケル異動及班員ノ配置状況
七月二日 高岡兼醫師(眼科)着任セリ。七月八日 水野
常次郎(藥局)内地帰還ヲ命じラレテ出發セリ。七月
十五日 佐藤謙生(電務)着任セリ。七月十八日 東陽一
教授南京へ到着セラレ今日ニ至リ日離南條(今 十五日
附リ以テ南京診療班長ニ任命セラレタリ)。
七月十七日以來同仁會防疫班、傳染病診療ノ業務ヲ
引渡ケ内科及小兒科医員等主ニ之ニ當リ、医員一名
看護婦四名ヲ傳染病隔離病舎へ出張セルメテ其ノ
診療ニ從事セルナリ、医員毎日交代セルモ看護婦ハ



第四表

類別	日本			中国			日
	一日	十日	二十日	六日	十二日	二十日	
検査数	九	六	五	三	三	二	検査数
不台格	二	一	一	一	一	一	不台格
内臓	五	三	三	二	二	二	内臓
皮膚	一	一	一	一	一	一	皮膚
眼	一	一	一	一	一	一	眼
耳鼻	一	一	一	一	一	一	耳鼻
産婦人科	一	一	一	一	一	一	産婦人科
小児科	一	一	一	一	一	一	小児科
外科	一	一	一	一	一	一	外科
内科	一	一	一	一	一	一	内科
合計	二	二	二	二	二	二	合計

(五) 存料患者状況 (内支那人四〇名)
 有料患者 (入院及外来者)ノ数ハ第五表ノ如シ。七月ニ於ケル收入金激増シ、各月ニ於ケル收入金ソ比較スレバ第六表ノ如シ。(但シ維新政府要人ノ入院料等ハ七月分ニ含ミテナラズ)

第三表

七月中入院患者数

各科別	人種別		合計
	日本人	支那人	
内科	6	6	12
外科	4	33	37
小児科	3	1	4
産婦人科	2	1	3
皮膚科	2		2
耳鼻科	1		1
眼科		2	2
合計	18	43	61

(四) 検査状況

七月ニ於ケル検査状況ハ第四表ニ於ケルガ如シ

(三) 入院患者状況

七月中ニ於ケル入院患者数ハ第三表ノ如シ

第五表

類別 区分	実数		延数		収入金
	男	女	男	女	
外来患者	238	182	764	519	2474.80
1/1-3/1	340		1283		
入院患者	9	9			840.75
検徴		209			104.50
合計					3420.15

第六表

12月	278.00
8月	472.00
9月	657.00
10月	899.55
11月	1168.15
12月	1465.45
12月	1364.65
2月	1228.75
3月	1589.30
4月	1636.10
5月	1992.60
6月	2050.50
7月	3420.15

(六) 支那人見習看護婦ノ状況

現在在籍中支那人見習看護婦ハ十六名ナリ、七月
中旬ヨリ隔日勤務時間外ニ時向講リ、ハ学校教
室ヲ借りテ高班長代理ガ彼等ニ看護婦學ヲ
教授シ、何モ熱心ニ勉強シ居レリ。

(三) 診療施療患者ノ状況

各科ニ於テハ支那人施療患者數ノ関係ヲ表示スル第六第七表ノ如シ。

第七表

科別	新患	旧患	合計
内科	296	227	1023
外科	309	1118	1427
小児科	185	304	489
産婦人科	112	216	328
皮膚科	225	628	853
眼科	240	1397	1637
耳鼻科	69	181	250
齒科	91	117	208
合計	1527	4688	6215

各科ニ於ルル病類別及於来患者ノ職業別及年齢別等ノ分類ハ卷末ニ記載アリ。冬ニ照セラレタリ。各科ノ診療状況ハ各科擔當医ノ記述ヲ乞ヒ其等ヲ記載スレバ次ノ如シ。

内科

真忠 佐野 醫員

今月中ノ新来患者総數ハ四百三十九名ニシテ六月ニ比シテ九名増加ヲ示セリ。暑氣ト共ニ消化器系疾患ハ急激ニ増加シ、特ニ水様下痢便ヲ數回シ、主訴トシ腹痛、發熱等無ク、便ハ血液ヲ混セズ、検査ノ結果陰性トシ、同病ニ多敷發症ヲ見タルハ注目ニ値セリ。七月十日ヨリ從來防疫班ヲ診療シツ、アリシ傳染病患者ノ診療ヲ引續グコト、ナリ引續キタル患者ノ病類別ニスレバ次ノ如シ。

赤痢六、腸チフス二、パラチフスB三、コレラ疑似一
 以上内コレラ疑似ハ漢口ヨリ帰来セル日本人コレラコレラ
 菌保菌者ノ疑アリテ入院セルハ菌検査ノ結果陰
 性ナリキ。尚七月十七日以降ノ診療班ヲ取扱ヒ
 タル傳染病患者病數別ハ次ノ如シ
 赤痢九、コレラ赤痢一、腸チフス二、産後ニ、パラチフスB三、
 猩紅熱二、疑似コレラ一

外科

高橋醫員
 高橋醫員

七月ノ特集三ニ三名中炎症性疾患最モヨク約六
 割シ占メ、外損傷ニ属スル疾患四割弱、腫瘍ハ僅五
 例(良性腫瘍四例、舌癌一例)アルニ止リ。
 炎症性疾患トシテハ蜂窩織炎四八例、瘡三五例
 外科的結核症一六例、急性腸炎起炎三例(何レモ日
 本人)、葉ヲ経テリ。尚痔疾一七例、下腿潰瘍五例

等アリ。外損傷ニ属スル疾患ニテハ外傷八五例ヲ
 占ム。七月十二日ノ大暴風雨ノ多ク家屋倒壊シ其ノ
 下敷タルモノ約一。例末院ニシテ其他ニ骨折二一例
 アリ。手術對スル理解進歩シ積極的ニ手術ヲ希
 望スル傾向アリ、小切開以テノ手術例數次ノ如シ
 痔瘻切除術三例、痔瘻摘出二例、粉瘤摘
 出三例、脂肪腫一例、指頭ヘルニア結止復一例、キ
 アス縮窄五例、前膊切斷術一例

産婦人科

松江醫員

婦人科 暑ヲ為カ致シ分未達者減少シ且興味乏例モ見
 産科 當ラズ
 1. 初産 二十四例、五月月産
 2. 才十三回経産 四二例、七月月 例方性前置胎盤
 十三日前ヨリ持続性出血アリ衰弱ノ結果末院ス
 貧血甚クシク一般状態既ニ不良ノ轉帰ヲ思ハシム。

早速内運轉ニヨリ思体ヲ計出スモ思致ノ慢出困難
 ナルメ後致カラシテ頭術ヲ施行ス一方生理的食
 塩水ノ靜注ヲ試ミタル(今晚時出血モ左程ヨカラス)
 暫時ニシテ鬼籍ニ入ル診診側方性前置胎盤ニヨリ出血
 耳鼻科

例月通リ外産者ハ中耳炎最モ多ク三割四分占ム
 外聴道炎一割五分占コトニ次ギ、政氏管炎等、扁桃
 腺炎咽頭炎等比較的少シ、先月報告セシ乳頭炎
 起炎二例中一例ハ事故ニヨリ手術中絶シ一例ハ小
 児ニシテ清炎瘡病ニシテ漸次快方ニ赴キ外方ハ
 穿孔白膿車後部ニ皮下膿瘍ヲ形成セシム以下ハ小
 児ニヨリ扁桃腺セシメ強ト金快ス、手術ハ鼻茸ニ例耳
 皮膚科原器科
 本月初産者數ハ二五九名(男一七一名、女八七名)

ニテテ総治療日數ハ共ニ減少ヲ示セリ。本月中ニハ
 熱帯性マラリアニ一例ヲ経験セリ。

小児科 細井醫員

今月外來患者總數ニ七九名中、外産ニ三八名ナリ、
 疾速ノ主ナルモノハ、百日咳九一名、腸炎及消化不良
 六五名、蛔虫症十六名、マラリア十四名(曾熱型十三名)
 アメーバ赤痢二名、之ノ外、本月中十七日ヨリ防疫
 班ノ傳染病室收容中ノ患者ノ診療シテ、結核
 其中ハ見附領域ニ屬スルハ、患者見ノ後患令數
 九ノ如シ。赤痢二名、天然痘一名、猩紅熱一名
 咽頭チフスアリ、之ノ外、診察病室ニ收容治療セシ
 患兒數四名ナリ、今月ノ特記スベキ事項ハ暑熱
 激烈ナル六月中ニ於テ、少雨カソシ、マラリアノ著シ
 キ増加、并ニ太陽炎及消化不良ノ増加ヲ認メシト莫ナ
 リ。

眼科

高岡 啓貞

七月申ニ於ケル特定者數ハ三四八名ニシテ其ノ大部
 分ハ創月ノ如クトラコーマナリ而モ強シト人全部ハ重
 寇或ハ中等度ノトラコーマニシテ所謂輕症トコ
 マハ強シト之ヲ見ズ、コレ一般患者ガ自覺症状ニ
 堪ハサルニ至リ初メテ一色治ツケツガ為ニ他ナラス、
 其他ノヤキハ結膜炎、角膜疾患、殊ニ角膜乾癆
 甚ク甚クシ、又翼状贅片相當見受ケラレ
 線内障、白内障、眼、疾、患、ハ一般ニ稀存ニシ
 テ特ニ奇ナルハ特發性、夜盲（結、角、膜、乾、燥
 症ヲ含テ）甚クナリナリ、七月申ニ於ケル
 本科ノ手術創ハ五〇例ニシテ、ホツツ氏法、翼状贅
 片、ビューステン、カインングトラコーマ手術、虹彩切除
 角膜点墨等其ノ主ナルモノナリ。

上 岩 啓貞

本月申末迄者總數一〇五名ナリ 其ノ大部ハ
 齦齒、疼痛及動搖、抜去ヲ主トセルモノ
 ナリ、齦齶障礙ニ因ル小兒ノ齦齶炎即チ
 潰瘍性及出血性、兩齦齶炎及潰瘍性口内
 炎等々各一例経験ナリ。

(四) 防疫ノ状況

七月中外班ニテ治癒シタル法定傳染病患者連者ニ三名アリテ
其内譯次ノ如シ
赤痢 細菌性九、アメーバ一、腸チフス四、
パラチフスB三、瘧疾ニ、猩紅熱ニ、チフス一
疑似コレラ一
南京市ニ於テハ本年未ダ「コレラ」發生セズ、唯七月
十八日漢口ヨリ「コレラ」菌 保有者一名飛行機ニ
テ飛来シ来タレハノミナリ。

(五) 衛生材料ノ状況

今年度請求セシ衛生材料及ヒ藥品等ノ補充既
ニ發送済ナルモ未ダ到着セズ、單急ニハリ得ガ
ルモノハ一部分現地ニ於テ購ハレタリ。

(六) 地方一般衛生概況及衛生施設

南京特別市政府主催 敬愛備司令部後援ノ
下ニ七月十九日ヨリ同二十八日ニ亘ル十日間南京市
朝天宮小学校ニ於テ南京衛生展覽會
催セラレタリ。好評ノタメ遂ニ七月三十一日迄展覽會
延バレタリ。之ニ対スル本班ノ出品次ノ如シ。

- 南京十大疾速統計表
- 南京醫院免費患者統計表
- 瘧疾患者數月表
- 全熱型令表
- 内科外來患者腸寄生年成績表
- 南京市川崎小兒之重耳鼻咽喉科疾速統計表
- 全視力検査表
- 全發育統計表
- 全身長統計表
- 全頰圍統計表
- 全頸圍統計表
- 全頭圍統計表
- 傳染性ノ有ル瘧疾統計
- 眼病解剖圖
- 全眼病統計表
- 眼病十戒
- 蛔虫圖



眼迄各回至一子

華籍婦女探察状況

婦人科外来病種類 人体穿孔探察
放線菌病の源体 瘰癧病の源体 梅毒病源体

淋病の源体 他島真 二十九葉
最近日本側 齒科医師等 南京歯科医師会

会々組織の其會員次ノ如シ
山下高美 中富誠 田川春 岩佐三雄

栗原良亮 中野嘉治 林 中青 中山愼精
池上茂 吉良吾三 蘇素貞

(七) 南京診療班ノ衛生状態

班員時々下痢ニ罹患シタレドモ 何レモ欲勤セズ
勤務ヲ繼續シ来レリ 森田班員七月二十五日
急性腸炎ヲ起テ突ニ罹患シ今二十九日軽快ナリ。

(八) 其他父要ト認ム事項ナシ

(九) 意見 無シ

班長代理 高 天成 編

5.
南
方
渡
玉
件

H-0255

0294